

# KURE KOSEN

 National Institute of Technology, Kure College

## 呉高専だより



平成27年11月1日(日)  
呉高専創立50周年記念モニュメント除幕式 ※関連記事 31頁

### 呉高専と保護者をつなぐ情報誌



## 目次

- 校長あいさつ  
かいた汗、流した涙はウリをつかない (校長 森野 敦博) …… 2
- 役職員あいさつ  
卒業生の皆さんへ (後援会会長 当田 信幸) …… 3  
シヤープさん たのんまつせ! (副校長 黒木 太司)  
学びの姿勢 (教務主事 篠部 裕) …… 4  
今年を振り返り、来年に向けて (学生主事 西坂 強)  
進化途上の学生寮 (寮務主事 木原 滋哉)  
専攻科改組に向けて (専攻科長 岩本 英久)  
学生相談室より (学生相談室長 宇根 俊範) …… 5  
羽ばたけ、世界へ (国際交流室長 尾川 茂)  
女子学生比率向上に向けて (男女共同参画推進室長 松野 一成)  
多彩な情報発信をしています (広報室長 間瀬 実郎)
- 卒業生・修了生へ  
機械工学科  
卒業生に向けて ~3年間を振り返って~ (担任 深澤 謙次) …… 6  
電気情報工学科  
卒業に寄せて (担任 板東 能生) …… 8  
環境都市工学科  
卒業おめでとうございます。 (担任 重松 尚久) …… 10  
建築学科  
このクラスの4、5年担任としての2年間を振り返って (担任 大和 義昭) …… 12  
専攻科  
修了 おめでとうございます (専攻科長 岩本 英久) …… 14
- 進路速報  
平成27年度卒業・修了予定者 就職・進学速報 …… 16
- 教育・研究 (呉高専日誌より)  
平成27年9月~平成28年2月までの活動状況 …… 18
- クラブ活動 (呉高専日誌より)  
平成27年9月~平成28年1月までの活動状況 …… 24
- イベント (呉高専日誌より)  
平成27年9月~平成28年2月までの活動状況 …… 29
- その他 (呉高専日誌より)  
平成27年11月~平成27年12月までの活動状況 …… 33
- 新聞・テレビ等に乗った呉高専  
平成27年4月~平成28年2月までの状況 …… 35



## かいた汗、流した涙はウソをつかない

校長 森野 数博

この1年、いろいろと嬉しいことがありました。ひとつは、ソフトテニスの個人戦女子ダブルスで、矢野明日香・矢野遥香さんが全国高専大会で優勝したことです。本校にとっては久々の全国制覇でした。彼女たちにとっては3回目の全国大会。昨年度、リードしながらあと一本が決められず、準決勝で涙をのんだ悔しさ。この敗戦で、改めて「一本」の重みを知り、怖さを知り、「あと一本」を確実に決められるようになることがいかに大変なことか、涙を流し、身をもって知った彼女たちは、その「一本」を克服するため、それからの1年、しっかり汗をかいていたように思います。特に、心と頭にかいた汗。体がかいた汗にこれらが付加され、決勝戦での最後の競り合いの場面でそれらが活かされた。かいた汗はウソをつきませんでした。

田中真美さんが日本商工会議所の簿記検定1級で全国トップの成績で合格したことも嬉しいニュースでした。約1万人が受験する1級は簿記検定の最上位の試験ですが、合格率は10%弱。そのなかでのトップ合格はそれだけでも素晴らしいことですが、それに史上最年少という快挙が加わりました。しかも、彼女は機械工学科。独学でこれを成し遂げたわけです。なにが彼女をしてここまで成長させたのか。その原動力はロボコンでかいた汗、そしてそこで流した涙にあると想像しています。

今年度も本校のロボコンは全国大会へコマを進めました。2年続けての出場。まだまだ全国大会で勝ち抜くほど完成度は高くありませんが、それでも着実に成長しているように思います。その足掛かりは、田中さんがロボコン部長をしていた3年前。テーマは「Shall We Dance?」、大縄跳びでした。田中さんたちが創り上げた「秀星」の完成度は高く、その年の全国大会で優勝した徳山高専「色とりドリイ」に2回戦で競り勝ち、大きな期待を抱かせましたが、準決勝で敗退。夏休み中、利き腕が太くなるほど毎日毎日縄を回し続けた田中さんも極度の緊張の中で、うまく縄を回しきれませんでした。チームメートはもちろん、周囲の期待も大きかっただけに、人知れず流した涙は推して知るべし。

その涙を拭きすべく国際交流に目を向け始めた彼女は、外務省が公募したKAKEHASHI Projectに参画。帰国して話す彼女の英語は、出かける前とは別人のようでした。この頃、将来の進路に迷っていた彼女は、次のように思い至ったそうです。「自分の好きなこと、やってきたことを活かそう。商社などの物流関係では、簿記、ロボコン、英語など、すべてを活かすことができる」。目

標が明確に定まった彼女は、簿記1級の独学も計画的にこなし、卒業後物流を本格的に学ぶべく、神戸大学に推薦で合格することとなりました。本校入学時には進路が明確でなかった彼女が辿った途は、多くの方々にも参考になるのではないのでしょうか。

今年度から始めたインキュベーションワークは、それらの活動を通じ、自らが自ら進むべき途を見つけ出す、そのようなことを学ぶことを目的として始めました。ここで大切なことは、どの活動も、本気で、真剣に取り組むこと。しっかり汗をかくことによって、初めて、見えない途も見えてくる、そう思っています。

しっかり汗をかけば、自ずと結果がついてくることは、電気情報工学科黒木太司研究室のめざましい活躍でも実証済み。個々の活動や実績は本校の「呉高専日誌」をご覧ください。実践されている日々の汗のかき具合は半端ないものがあります。研究室に配属された当初には、たとえば長期休暇中の集中講義、昼休み中は月曜以外は毎日英語力トレーニング、土曜日の午後は毎週研究発表会、専攻科生はひとり2テーマを担当、などなど。これらの修行の途中には、叱責されたり、自己嫌悪に陥ったりと涙を流すことも少なくないでしょうけれど、国内外の学会で何度も発表し、学会賞を受賞したり、外部資金に採択されたりとしっかり結果を出したあとの彼らの自信に満ちた姿を写真で拝見すると、私まで誇らしい気分にさせてもらっています。

みなさんの中には、この1年、たくさん汗をかきながらも流した涙の方が多かった方も少なからずおられることでしょう。最終戦で逆転負けし、広島県大学リーグ優勝を逃したサッカー部、逆転負けした夏の甲子園予選、ソフトテニスの男子団体戦、デザコンの構造部門、AM部門、等々。勝てなかったのは、まだ汗のかき方が少なかったからかもしれません。今年流した涙を忘れず、来年度は多くの方々の笑顔に出会えたらと。

卒業生、修了生の方にも、呉高専でのいろいろな場面で幾度となく汗をかき、涙を流したことで、それが、卒業・修了につながっているわけですが、これを一里塚とし、さらに大きな夢をめざし、これからも汗をかき、時に涙も流しながら成長を続けていただきたい。ご活躍を祈っています。







## 卒業生の皆さんへ

後援会会長 当田 信幸

最近、呉高専は新聞に取りあげられることが何度となくありますが、これもひとえに学生の皆さんの何事に対しても一生懸命取り組む姿勢、高い志やひたむきな努力、また最後までやり遂げる精神力、これらが実を結んだ結果だと思えます。これからも皆さんが学んだ一般科目や、専門科目の知識、また研究開発能力などを、どれだけ発揮できるかが大切です。自分自身のためでもありますし、母校の評価をますます高める事にも繋がりますので、皆さんの頑張りに期待しています。

また、今から進む道のりでは幅広い視野を持ち、呉高専で過ごした年月の中で経験したことを糧とし、自分の力を十分に発揮してください。

そしてその道のりで忘れてほしくない事が三つあります、一つ目はいつまでも自分の夢を持ち続ける事、ただ漠然と日々を過ごすのではなく目標に向かって進んでください。

二つ目は常に感謝の気持ちを忘れないで欲しいという事、人は常に誰かに支えられているし決して一人では生きていきません。

そして三つめは忍耐力のある人間になってもらいたいという事です、これからは今まで以上に我慢するという事が重要になってくるでしょう。この三つを頭において成長して頂きたいと思えます。

それから今までは自分の事だけを考えて生活することで精一杯だったと思いますが、これからは周りの人達を助け、自分以外の人のために働く事も心掛けてください、「情けは人の為ならず」です。

そして卒業後、日本国内のみならず世界を舞台に活躍され、再びこの呉の地に帰ってきて、希望や活気あふれる呉市を育てて貰いたいと思います。

たとえこの先つらく苦しい道のりでも、皆さんには本校で指導をして下さった諸先生方や共に学んだ友人達、そして何より家族が応援しています。このことを忘れずに頑張ってください。



## シャープさん たのんまつせ！

副校長 黒木 太司

長い間基盤技術研究所協力者として、微力ながら製品開発の下支えをさせて頂いた。後に株式会社を起し、取締役としてベンチャー経営に参画した際の基礎はこの時期に生まれたといっても過言ではない。研究室の学生もそのご縁で、随分シャープに入社させて頂いた。シャープのことを思うと、身につまされる思いである。

そんな折「シャープ、台湾鴻海が買収へ」の報が届いた。誰もが目を疑ったに違いない。しかしながら翌日新聞で確認すると、鴻海のビジネスプランは産業革新機構のそれと比して具体的かつ現実的であった。ということであれば、国内・外資企業のコラボレーションもマツダとフォードの事例同様、イノベーションに近い相乗効果があるかもしれない。

松下電器副社長であった、故水野博之さんにお会いした折、「イノベーションは技術革新やなく社会を変えることや、既存の新しい組み合わせが新しい価値を生むんや。」と諭して頂いたことを思い出すと、今後のシャープには心からエールを送りたい。

それではイノベーションはどのように生まれるのであろう。先達を見るに、知識と経験が蓄積された異分野人材の結集から派生してゆくように思われる。いくら機転の利いた発想はあっても、基礎学力ゼロでは損失こそあれ利益は生まれない。

私の指導教授は実に基礎に厳しい方だった。早く結果を出したいのに、先生は常に基礎を追及しると叱咤する。これでは迷宮たる東京タワーの非常階段を、修行僧の如く頂上に向かって苦しく登って行くようなものだと思っていたが、一旦頂上まで登り詰めるとそこはまさにパラダイス。富士、赤城、筑波の三山はおろか、大海の果てまで見渡され、新しい発想が次々と生まれてくるのである。

諸君よ。徹底的に勉学に励むべし。自己研鑽に王道なく、鉄は熱いうちにしか打てない。



## 学びの姿勢

教務主事 篠部 裕

教務主事として1年目の4月の始業式では、学生に以下のような話をしました。

**①志を立てよう！**：志は人それぞれ異なります。短期的な志（中間試験の成績を上げる）から、中期的な志（高専の全国大会に出場する）まで様々です。まずは新学年のスタートに際して、各自が志を立て、目標を達成するため、今何をすべきか、日々何をすべきか、今後どう変わるべきかを考え、行動してください。

**②クラス内で互いに学び合う、教え合う環境を作ろう！**：数学が得意な学生は数学を、英語が得意な学生は英語を、友達に教えてみてください。友達に教えることは、自分の言葉に咀嚼し理解を深めること、コミュニケーション能力を向上させることなど多様な相乗効果が期待できます。お互いに教え合うことで、助け合う気持ち、高め合う姿勢も芽生えます。

在校生の皆さん、そしてこの春、卒業・修了する皆さん、志を立て夢の実現に向けて仲間同士で高め合う、そんな人間関係をぜひ築いてください。



## 今年を振り返り、来年に向けて

学生主事 西坂 強

本年度の学生指導目標は①挨拶のできる学生へ②服装身なりの整った学生へ③ルール・マナーを守る学生へ④クラブ活動の活性化による文武両道の実践の4項目を念頭に置いて、学生主事補の先生方および学生会の学生達と話し合いながら進めています。

身なりと挨拶については一進一退の状況で、学生達自身が整った身なりで挨拶ができることの大切さを理解すれば早いのですが、そこを考えさせることが来年度の課題です。

校則・公共マナーを守る行動については処分件数が指標となります。昨年に比べ約4割減の処分件数で推移していますが、SNS関係の重い処分も新たに発生していて、指導項目が変わりつつあります。SNS系は学外の協力も得て徹底した指導を行いたいと考えています。

クラブ活動の活性化として、1学生1クラブ制の運用とクラブ数24を進めており、クラブが活発になり学生達がクラブ内で切磋琢磨できる環境ができています。

来年度については、上述の4項目をより具体的な方法で進め、良い学生が育成できるよう努力してまいります。

卒業する学生諸君は、社会人として世間に迎えられる一歩目であり、自らが確りとした行動が出来るよう、上述の4項目を身に付けて歩んで行ってもらいたいと願っています。



## 進化途上の学生寮

寮務主事 木原 滋哉

学生寮は、進化しています。

2年前に各部屋にエアコンを設置したのに続いて、

今年度は無線LANを使用できるようになりました。

寮生数も300人を超え、女子寮生も定員に近づいてきて、多くの入寮希望者にどうするか、対応策を考えているところです。また築約50年の第4寮（1年生が居住）も、改修を計画しているところです。学生寮の居住環境は確実に進化しつつあります。

しかし、学生目線に立つと、門限があり、毎晩点呼を取られ、ちょっとしたことで減点されて、場合によっては退寮を勧告されてしまう生活は、窮屈だと感じているかもしれません。

それでも減点がないまま卒業していく寮生も少なくありません。自立した生活を送れる寮生にとって、少しでも快適な生活ができるように、今後も居住環境を整えていきたいと考えています。



## 専攻科改組に向けて

専攻科長 岩本 英久

平成27年度は専攻科の改革を粛々と進めた年となりました。

来年度の専攻科は、いままでの2専攻がプロジェクトデザイン工学専攻に一本化されます。

この専攻では、社会を変える技術者を輩出するために、課題発見能力などを身に付けるカリキュラムを設定し、多様性を涵養する環境を整えています。この改組を実現するために、学位授与機構に対して認定専攻科を申請しています。

来年度は改組元年。4月早々に特例適用申請を行い、厳しい審査を受ける予定です。もし認可されれば、専攻科生は学位試験を受けることなく学位を取得することができるでしょう。特例適用認定を受けるためには、教員の研究実績が必要です。本校にはアカデミックに活躍している教員が多数いますが、油断は禁物です。日々の研究活動は社会のためになり、学生のためにもなります。私たちはこれからもしっかりと精進して成果をあげ続けたいと思います。





**学生相談室より**

学生相談室長  
宇根 俊範

今、手元に数枚の月別の状況報告書がある。悩みを抱えて学生相談室に来室した学生の氏名や状況を記載したものである。公文書ではなく、私が忘れることがないように記録にとどめているものであるが、それを見るとこの一年も多くの学生が相談室（カウンセラー）のお世話になっており、その相談内容は多岐に渡っている（進路、勉強、人間関係等々）。

ただ、学生氏名には出入りがあり、一年を通じて名前が載っているものもあれば、数ヶ月後には名前が見えなくなるものもある。悩みを克服した学生についてはホッと一安心であるが、なかなか思うようには行かないのが現状であり、一度記載した氏名が消えるまでには相当の期間が必要である。

学生相談室の充実化が望まれるところであるが、来年度は各分野に相談室員を配置する予定である。よりきめ細やかな学生相談の体制を構築し、「悩める学生」のサポートをはかる所存である。



**羽ばたけ、世界へ**

国際交流室長  
尾川 茂

本校では専門技術をバックボーンにして、世界目線で物事が考えられるスマートエンジニアの育成を目指しています。世界を知り、世界と対話し、そして世界に挑戦する三つのステップでその目標達成に向け取り組んでいます。

昨年3月にオーストラリアのラドフォード高校と協定を結び、今年2月末には16名が相手校を訪問し交流を深めます。

また新たな取組みとして、9月には3年生が4学科揃って台湾研修旅行に行きます。感受性の豊かな若い年代に世界の国々を訪れ、自分の目と耳と肌で世界を体感して経験値を広げて、激しく変化するグローバル化時代を生き抜く術を身に付けてくれることを強く願っています。



**女子学生比率向上に向けて**

男女共同参画推進室長  
松野 一成

「女子学生比率を30%以上に！」とのミッション達成のために平成25年度に女子学生広報部が結成されました。

現在は3期メンバーを加えて活動しております。女子学生広報部は、今年度の卒業生が3年生の時に結成され、メンバー全員が広報部の活動の中心を担ってくれました。

平成26年度から高専機構の男女共同参画推進のモデル校に指定されたこともあり、活動前の学校全体の女子学生比率は14%程度でしたが、平成27年度入学生の女子学生比率が20%に達したことにその成果が表れております。

平成28年度にはもっと比率が向上しているはずで、ミッション達成までの道筋が見え始めたところであり、今後も女子学生の力を活かした広報活動を実施し、優秀な女性技術者を育成し、女性が輝く社会実現のために寄与したいと考えております。

そのための女子学生の皆さんの協力をお願いします。

また卒業生、OGの皆さんにも広報活動への協力をお願いいたします。



**多彩な情報発信をしています**

広報室長 間瀬 実郎

今年度から広報室長を担当しています。広報室では本校の公式ホームページとショールームの管理運営をしています。ホームページは昨年3月のフルモデルチェンジ以降、呉高専日誌の投稿が格段に増えています。それに伴い6記事を同時表示して、できるだけ長い時間、目に触れるように対応しています。また今年度から新設したバナー「インキュベーションワーク」「新聞TV等」に載った呉高専、「文化行事」、「教育改革の成果」が加わり、知りたい情報を簡単に見ることができるようになりました。

ショールームの展示は、昨年5月に「建築学科」、8月に「機械工学科・環境都市工学科・工作実習工場」、11月に「ソフトテニス女子ダブルス全国優勝」、そして今年1月に「電気情報工学科」をフィーチャーしました。学内での鑑賞はもちろん、学校見学会や高専祭の時期には学外から多くの方が鑑賞してくれました。

昨年11月からは50周年記念時計台モニュメントに付設された電光掲示板の運営も始まり、学内のニュースはもちろん、地域に役立つ情報提供も始まっています。呉高専はネット上でもリアル空間でも多彩な情報発信をしつづけています。



## 卒業生に向けて ～ 3年間を振り返って ～

機械工学科5年担任 深澤 謙次

機械工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。5年の担任として卒業生を送り出すのは、このクラスで3回目になりますが、このクラスほどいろんなことがあったクラスはありません。減多にできない経験をこのクラスでさせてもらい、学ばせてもらいました。

低学年で授業がなかったのも、皆さんと始めて顔を合わせたのは、3年の担任を受け持った最初の始業式のときでした。それ以前に聞いていたこのクラスの噂はあまりいいものではありませんでしたが、特に心配はしていませんでした。

しかし、3年の担任を受け持ったすぐに、全く予想しない大変辛く悲しいことがありましたね。若いうちに友達を失くすことは現代ではあまり経験する人がなく、シヨックだったと思いますが、辛い経験を乗り越えたときは成長するのであり、そういう経験を多くした人ほど他人に優しくなれるということ覚えておいて下さい。幸い、その年はその後大きな不幸が起こることはなく、ホッとしました。みんなは、ステップキャンパス、高専祭、文化行事、駅伝大会などの学校行事で学生生活を楽しんでと思います。

4年生になってクラスメートが何人か入れ替わり、気分も変わって、もうあのようなことはないだろうと思っていると、また、予想外のことが起こり、担任が悪いのか、ひょっとして何か憑いているのではないかと、思ったこともありますが、みんなはそんなことにはめげず、クラスの雰囲気は変わらず明るいままだったので救われた気がします。

4年生では夏にインターンシップがあり、10月には特別見学旅行で鹿児島に行きましたね。一番のお目当ては鹿児島の種子島にあるJAXA種子島宇宙センターでしたが、これは正直期待はずれで残念でした。それでも参加した学生はみなそれ

なりに楽しんでいたようで、行って良かったと思います。

4年生の終わり頃になって、いくつかの企業の説明会を授業中や放課後に行きました。進級が決まらないうちはなかなか就職活動をする実感が湧かなかったかも知れませんが、就職先企業を選ぶ際の参考にはなったと思います。

5年生になってすぐ面接リハーサルがありました。これで就職活動にスイッチが入った者もいたのではないのでしょうか？この時点ですですいろいろな企業の情報を集めて就職先を検討していた者と、ポーツとして具体的な職種をあまり考えていない者に分かれていたように思います。

今年度の就職活動は例年と違い、会社説明会が3月解禁、就職選考が8月解禁という非常に迷惑なスケジュールでしたので、それに救われた者もいたかも知れませんが、逆に志望する企業が8月まで結果を出さないことで、その企業を受けるかどうか迷った学生もいました。志望した企業に受かったかどうかはともかく、結果的には売り手市場でみんなには有利で良かったと思います。

5年生のクラスを見ていると、5年生になっても3年生の頃とあまり変わっていないように見え、こんな風で就職して大丈夫だろうか？上司や同僚に呆れられるのではないだろうか？大きな失敗をするのではないだろうか？と不安になってしましますが、卒業後はみんなそれなりにちゃんとやっていると信じています。

これから楽しいことも悲しいこともいろいろなことがあるでしょうが、卒業してからが本当の学びであり、それから逃げずに堂々と受け止め、人として学び成長して欲しいと思います。



平成26年10月18日呉高専日誌より

## 機械工学科4年研修旅行 in 鹿児島

機械工学科4年 西村 宏志

10月14日～10月17日の4日間、僕たち機械工学科は鹿児島に研修旅行に行ってきました。大まかな日程はこちら

- 1 日目 JX日鉱日石石油基地見学
- 2 日目 JAXA見学、鉄砲館
- 3 日目 特攻平和会館、城山展望台見学
- 4 日目 科学館、博物館見学

中でも思い出に残った出来事を写真付で紹介していきます。まずは、1日目の旅館で入った砂風呂。とっても気持ちよかったです。

続いてまたまた1日目の夕飯のときの様子。



カラオケがあったのでみんなで熱唱しました。

続けて2日目のJAXAで撮った集合写真。



みんながしているポーズは、ロケットの先端をイメージしています。そして3日目の桜島。実際に噴火しているところが見ることができました。

そんな桜島を背に写真も撮りました。最初はどなることかと思いましたが、

たくさん思い出を作ることができました。これも様々な方のご支援あってこそだと思います。本当にありがとうございました。



平成27年6月29日呉高専日誌より

## 機械工学科5年生 田中真実さん簿記検定1級合格最優秀者表彰

機械工学分野 尾川 茂、野村 高広



機械工学科5年生の田中真実さんが日本商工会議所の簿記検定1級に見事合格しました。

合格率8.8%という難関検定であるにもかかわらず、受験者9931人の中、全国1位のトップ成績で合格し、日本商工会議所より最優秀者の表彰状を授与されました。19歳での表彰は、記録が残る中で史上最年少受賞との報にも驚きです。

もちろん現役高専生の受賞としても初めてのこととなります。

田中さんはこれまで、ロボット製作クラブの部長や地区大会の選手を経験すると

もに、シアトル総領事館での英語プレゼンや大連大学との国際交流などでも活躍してくれました。

こうした経験をベースに、中学生から挑戦してきた簿記検定試験において、この度1級合格をトップ成績で獲得し、呉高専という教育環境で自らを着実にステップアップしてくれ、大変喜ばしく思います。

田中さんに続き、自らインキュベーションする学生が今後増えてくることを期待しています。

平成27年11月14日呉高専日誌より

## 2014みんなの夢・アイデアコンテストの試作賞の授与

機械工学分野 岩本 英久

機械工学科5年の盛田君と盛本君が2015みんなの夢・アイデアコンテストの表彰式(大和ミュージアム)で、昨年度受賞した「試作賞」の試作品を受け取りました。

シグマ株式会社様(呉市)が昨年度に受賞した彼らのアイデア「名探偵RF」を1年かけて、本当に作ってしまったのです。

このアイデアは、よく見失ってしまう生活必需品に発信器をつけて、携帯電話で見失った物のありかを知らせるといったもので

す。そんな夢のような道具の試作品を受け取った2人は「これからは自分たちが、みんなのアイデアを形にしなければ!」と思ったことでしょう。

呉のものづくりの底力を実感しました。



平成28年2月17日呉高専日誌より

## 「第9回 八光熱の実験コンテスト」3位入賞

専攻科機械電気工学専攻1年 古久保 佳男、機械工学科5年 廣瀬 達哉



私達の所属する流体工学研究室のメンバーで独自に取り組みしました「第9回八光熱の実験コンテスト」で3位入賞が決定しました。株式会社八光電機による、全国の大学・高専・高校等を対象とした全国規模の熱に関する実験コンテストです。

今回の応募チーム総数は非公開とのことですが、6月に全国からのエントリーに対して、書類審査により実験を行う10チームに選ばれます。

その後、12月までの6ヶ月間に提出したレポートや動画等の総合判定により、1位～3位の入賞が決定されます。私達の提案した実験テーマは、「熱で泳ぐ魚ロボット?」です。

子供達が工学に関心を持ってくれる様、お湯を注げば元気に泳ぐように遊び心を加えて設計し、それを実験しました。その結果、「表現力」が1位、「娯楽性」が2位、「効果」が3位となり、総合で3位入賞を獲得しました。実験の詳細は次のリンクで公開されています。

<http://www.hakko.co.jp/contest/>

もちろん3位の賞金は、更なる上位入賞に向けて、呉高専に寄附いたしました。以上、研究室内のプチ・インキュベーションの報告でした。





## 卒業に寄せて

電気情報工学科5年担任 板東 能生

電気情報工学科5年生の皆様、御卒業おめでとうございます。  
このクラスは私の長男と同じ学年ということもあり、微妙な距離感を感じながら2年間の担任を務めさせていただきました。保護者の皆様には同年代で頼りない担任であったかとも思います。

今年の5年生は就職希望者が例年になく多かったこと、また就職協定の見直しに伴う採用選考時期の変更なども有り進路決定に不安を抱えての進路指導でしたが、好景気にも支えられ結構すんなりと全員の進路が決定しました。

昨年の高専便りには「緊張感が足りない」と書かせていただきました。相変わらずマイペースなのんびりしたクラスの雰囲気ですが、この一年でずいぶんしっかりしてきた学生も多かったようにも思います。このあたりも順調な進路決定の一因ではないでしょうか。

さて、卒業にあたって殆どの人は大きく環境が変化すると思います。この機会に【高専】というマイノリティな閉鎖的環境に5年間？もどっぷりと漬っていたという認識をきちんと持って下さい。良くも悪くも高専の卒業生は社会では圧倒的な少数派です。これまで自分たちが「当たり前」と思っていたことが、実は高専以外では全く通用しないことが沢山あるでしょう。特に就職する人たちにとっては、5年間約40人のク

ラス内の閉じた人間関係の中で過ごしてきましたが、職場の同僚でも高専卒は少数でしょう。65歳の定年まで45年間働くとして、これまでの人生の2倍以上です。高専生活の9倍あります。高専の良いところ、外の世界の良いところ、それぞれの「良いとこ取り」ができるように新しい外の世界に目を開いて下さい。

また、進学組も就職組も「将来やりたいこと」があって決めた進路だと思います。次は本当に「やりたいこと」を実現しましょう。みんな「やりたいこと」は一つではなかったと思います。沢山のやりたいことの中から、ある種の選択をして今の進路が決まったと思います。将来、「あそこで捨てたのは勿体無かった」と後悔しないように、自分の選択した「やりたいこと」を実現できるように人生設計をして欲しいと思います。

君たちがどのように認識しているか分かりませんが、“結構優秀ですので、あとは「やるかやらないか」です。まだまだ力の出し惜しみをしている人も多そうですが、そろそろ本気を出してみませんか？ やらなくてできないのは当たり前、とりあえず卒業は一つの節目ですので、この先の長い人生をどう過ごしていくか、考えていきましょう。



平成25年4月24日呉高専日誌より

## 電気情報工学科3年創造演習の様子

電気情報工学分野 井上 浩孝

4月24日(水)は来週、再来週と月曜日が休日となるため、月曜日の振替授業です。3・4時限目に電気情報工学科3年生の創造演習がありましたので演習風景をご紹介します。電気情報工学科では、創造演習を二つのテーマに分けて実施しています。一つは、「非接触型の金属探知機の制作」、そしてもう一つは今回ご紹介する「LEGOロボットコンテスト」です。

二人一組の14グループにて、各自が創意工夫しながらグループで相談しあって課題を解決するためのロボットを製作します。そして、ロボットを制御するために、LEGO MINDSTORMS NXTというソフトを使ってパソコンでプログラミングを行い、USBでロボット本体にそのプログラムをダウンロードし、ロボットを動かします。

ロボットを制御するために、黒い線を識別するための赤外線センサー、物に衝突したら反応する

タッチセンサー、障害物との距離を測定する超音波センサー、音に反応するサウンドセンサー、そして3つのモーターがキットに入っています。これらのセンサーやモーターを組み合わせ、各自が独創性あふれるロボットを製作します。

第一回のロボットコンテストは、周囲コースを2周回って、3周目の所定の場所にピタリと止めるという課題です。制限時間2分以内に到達できなかったり、コースアウトして障害物に衝突したり、所定の場所を少しでもみ出したら失格となります。5月20日(月)の3・4時限目にコンテストを開催する予定です。

次回、第一回ロボットコンテストの様子をご紹介します。



平成26年2月26日呉高専日誌より

## 電気情報工学科3年社会見学と学年修了を迎えて

電気情報工学科3年担任 平野 旭



2月25日(火)に電気情報工学科3年生は、中国電力エネルギー総合研究所へ見学に行ってきました。私たちに安定した電力を供給する為の技術開発や省エネルギーなどに関する研究開発を行っている中国電力グループの研究施設です。

専用のフロアで発電技術などに関するDVDを見せて頂きました。その後、電気エネルギーに関する講義と電気エネルギーに関する体験講座を実施して頂きました。

その後、外に移動して太陽光発電パネルや高圧実験設備などを見せて頂きました。見学後、質疑応答の時間を作って頂き

ました。たくさんの学生が積極的に質問をしていたのが本当に嬉しかったです。また、最後に、スタッフの皆様から、人生の先輩として「学生のうちにしておいた方がいいこと」など、貴重なメッセージを頂きました。

中国電力エネルギー総合研究所多田様、スタッフの皆様、本日は本当に有難うございました。

いよいよ3年生も修了です。一年間の出来事、みなさんの成長は、この集合写真が物語っていると思います。4年生になってもみんなで仲良く、しっかり頑張ってください。



H26実験風景



H26高専女子フォーラム



H25実験風景



H25ソーラーパネル見学





## 卒業おめでとうございます。

環境都市工学科5年担任 重松 尚久

環境都市工学科5年生のみなさん、卒業おめでとうございます。5年間（6年間の人もいますが・・・）の高専生活を送り、このたび卒業の日を迎えることができたみなさんに、心からお祝いを申し上げます。これから社会人として社会へと巣立っていく人、あるいは進学し勉強する人など、進路は様々ですが、呉高専での在学中の苦労と努力がみなさんの自信となってくれるはずですよ。

このクラスは、4年生からの2年間担任をさせて頂きました。留年を経験した人数が8名というクラスでしたが、協力してなんとか全員そろって進級し卒業してほしいという思いがありました。

そのため4年次の夏休みなどはインターンシップや校外での単位修得など単位が取れそうなものはすべて習得するように指導してきました。特にインターンシップは自分の進むべき方向性の参考にしてもらうために、全員に参加してもらいました。

次に、後期の授業が始まると、特別研修旅行がありました。いろいろな事情から国内での研修となりましたが、みんなとても楽しみにしていました。初日、台風の影響で飛行機が飛ばずどうなることかと心配しましたが、一日目の予定を少し変更するだけで対応できました。山梨にあるリニア実験線の見学や今となっては貴重な経験となった大涌谷にある箱根ジオパークの見学や横浜港の港湾施設の見学など、とても充実した研修旅行になったと思います。

しかし、残念ながら4年生の3月には単位不足により4年生を再チャレンジする人、また留学により休学する人が出たため、5年生は37名のクラスとなりスタートしました。

5年生に進級したと同時に、最大の難関である就職活動や進学対策が待っていました。例年であれば、ほとんどの学生は4年生の3月にはある程度進路を決定しているのですが、採用スケジュールが大きく後倒しになる最初の年となったため、見えない部分が多くありました。そのため、4月

になっても進路がなかなか決定できなくて悩んだ人も多くいましたが、みなさんの希望に沿った進路に進めるように指導やアドバイスを行ったつもりです。面接や試験で自分の実力を十分出し切れなかった人もいましたが、民間の企業に就職を希望する人は8月に、公務員を希望する人も11月に全員内定を頂くことが出来ました。

また、進学組の中にも、若干苦労した人もいましたが、8月には全員合格することが出来ました。これもみなさんの努力と実力のたまものだと思います。

次に待っていたのは、5年生での最大の楽しみ（苦しみ？）である卒業にむけて1年間かけて取り組む卒業研究です。座学や実験実習とは全く異なる研究の流れは、社会勉強にも繋がります。“自分で考え選択し行動する”実社会ではこの繰り返しです。成功したときより失敗したときのほうが、大きく自分を成長させることを学んだと思います。その達成感は何々で異なるかもしれませんが、きっと社会に出て生かせる経験になったと思います。

卒業生のみなさんは、4月から土木技術者としてそれぞれの道に進んでいきます。これからは、自分の興味・関心や能力適性、社会の仕組みや自分の果たすべき役割などについての認識を深めながら、その実現に向けて努力を続けてほしいと思います。

努力を続けることはとても大切なことです。しかし、どうしてもうまくいかず、自分の選択に不安を感じ、場合によっては心の折れるほどの挫折を経験することもあると思います。その時は自分一人で悩まず、家族や友人、同僚や先輩に話をすることが大事です。それでも、どうにもならないときは、ぜひ呉高専に来て話を聞かせて下さい。

最後になりましたが、2年間の担任を通じて、私も皆さんから多くのことを学びました。本当にありがとうございました。これからのみなさんの活躍を心からお祈りしております。



# 環境都市工学科

平成23年4月19日呉高専日誌より

## 環境都市工学科1学年 高専生活スタート！

環境都市工学科1年担任 堀口 至

4月3日(日)に入学式が挙行され、今年も新しい高専生が生まれました。新入生のスケジュールはハードで、4月4日(月)の対面式・始業式で上級生との顔合わせを行った後は、2日間、高専のシステムを勉強するための新入生オリエンテーションがあります。

オリエンテーションでは、寮務主事ガイダンス、教務主事ガイダンス、学生主事ガイダンス、教育センターガイダンスなどみっちり予定が組まれています。

授業が開始されたのは4月7日(木)からで、既に1週間経過した現在、ようやく一

通りの授業を受けたことになります。まだまだ始まったばかりで大丈夫かもしれませんが、高専の勉強は難しく、進むスピードが速いと言われています。勉強についていくためには日常の勉強しかありません。自宅学習を必ず行うようにして下さい。

高専生活5年間は長いようで短い期間です。皆さんが楽しく、充実した高専生活を送ることを願っています。まずは1年間、頑張りましょう！



平成26年10月17日呉高専日誌より

## 環境都市工学科研修旅行！

環境都市工学科4年 藤平 卓也



環境都市工学科4年生は、10月14日から3泊4日で研修旅行に行ってきました。残念なことに、台風が来ていたので飛行機が遅れ、初日の予定がすべて潰れてしまいホテルにチェックインしただけで終わってしまいました。

2日目は日本科学未来館に行き最先端の技術を見てきました。環境コースで学んだが遺伝子工学の最先端を身近に感じることができました。

3日目はどきどきリニア館とわくわく山梨館に行きリニアについて詳しく解説された展示や映画を見たり、ミニリニアに乗ったりしました。JRに就職してリニアに携わ

る仕事をしたい人にとってとても有意義な時間でした。

4日目は待ちに待った港湾見学に行きました。世界最大規模の港を船に乗って見学させていただきました。横浜ベイブリッジを下から見ることができ貴重な体験をさせていただきました。国土交通省の方の説明はわかりやすく港が海外から荷物を運ぶうえでとても重要であることを学びました。この4日間を通して、クラスみんなとより一層仲良くなり、今後の学生生活をより楽しいものにしていきたいです。

平成27年6月17日呉高専日誌より

## 環境都市工学科5年生の卒業研究で「粘土祭り」を行いました

環境都市工学分野 森脇 武夫

毎週水曜日の午後は、環境都市工学科の5年生は卒業研究の時間です。それぞれの指導教員の研究テーマに沿って様々な研究を行います。6月17日(水)は地盤研究室では実験に使う粘土試料を調整する作業を行いました。

この作業は、海底から採取した粘土の水分量を調整し、均質になるように良くかき混ぜて、保存用のコンテナに仕分けする作業です。ドロドロの状態にかき混ぜるため、しぶきが散って大変ですが、泥んこ遊びをして楽しむような感じですので、「粘土祭

り」と称しています。

共同研究をする企業の方にも指導をしていただき、無事作業を終えました。

「粘土祭り」が楽しいと思えるようになれば地盤研究室の一員です。

この粘土は、廃棄物の最終処分場の跡地を利用する際に、汚染物質が域外に出ないような工法を検討する実験に使います。実験で明らかになった成果が社会に役立つことが期待されます。



平成28年1月27日呉高専日誌より

## 環境都市工学科3学年 先輩のお話

環境都市工学分野 堀口 至



1月27日(水)の3年生のLHRの時間を利用して、卒業を目前に控えた環境都市工学科5年生の講演会を開きました。

就職、進学が決まった先輩方から、進路の決定方法や、4年生でやって良かったこと、やれば良かったことなどについて、自らの体験を踏まえて話して頂きました。

4月からは3年生の皆さんは4年生です。4年生は進路を決めるための重要な準備期間ですが、忙しい学年なのであつという間に時間は過ぎていきます。先生や先輩、インターネットなど、様々なところから情報は集めることがで

きます。なので、受け身ではなく自ら動いて情報を探して下さい。4年生で後悔しないような充実した生活が送れると良いですね。

今回、先輩の皆さんから体験談を丁寧に、かつ分かりやすく話して頂いたことで、皆さんのこれからの高専生活にも充分役立つはずですよ。

最後になりましたが、貴重な卒業研究の時間を割いてお話しに来て頂いた、下鍛冶君、山中君、泉君、八木さん、藤平君、本当にありがとうございました。





## このクラスの4、5年担任としての2年間を振り返って

建築学科5年担任 大和 義昭

建築学科5年生の学生の皆さん、ご父兄の皆様、ご卒業おめでとうございます。無事に卒業できるのは5年間実績を積み重ねてきた学生の頑張り、それを支えてくださったご父兄の皆様のおかげだと思います。お祝いを申し上げますとともにご父兄の皆様には感謝申し上げます。

私が本校に着任してから9年経ちます。私が本校で卒業式の日を迎えるのは今年で10回目ですが、中でも初めて5年担任として学生を送り出す今年が、間違いなく最も思い出に残る卒業式になることでしょう。

私がこのクラスの担任となったのは彼らが4年生になってからですが、それから2年経った今日、34人全員が進路を定めて無事卒業できる日にあらためて2年間を思い返してみると、「色々なことがあったなあ」と感慨深いです。

私は、担当する授業科目はほとんど4年生以上の科目なので、3年生以下の低学年の学生と話す機会はあまりありません。1年生の後期の半年だけ設計製図Iを担当していますが、2年生と3年生の学生たちと会話をする機会はほとんどありません。3年生の学生にとって私は、学科の教員の中で縁遠い存在と言えるかもしれません。また、私は学生に対してあまり愛想が良くないと言われることが度々あります（そう見えるだけです）。2年前の彼らにすれば、そのような教員が自分たちにとってとても重要な4・5年担任になったことに不安を覚えたかもしれません。私も、担任をもつのは久しぶりで、特に進路指導を担当する4・5年担任は初めてだったので、最初は緊張していました。「不安を感じているかもしれない学生達を少しでも安心させねば」と思い、最初は努めて優しく丁寧に話しかけたものでした。

でも、そのような期間はあまり長くは続きませんでした。というのもこのクラスの雰囲気のためです。言葉で言い表すと、「屈託がなくて開けっぴろげ」であって「隙だらけで人懐っこい

という感じです。そういえば彼らが1年生のときの設計製図の授業では、製図室のあちこちでキャツキャツキャツと話し声が聞こえてきて、その度に注意していたものでした（ちなみに、このクラス以降の学年での1年生の設計製図では、私語がほとんどありません）。

そんなクラスの雰囲気、徐々に顕れた私の本来の性格（小言やイヤミが多いと言われます。。。）が相まって、施設使用願への担任印の押印などの小さなことから、特別見学旅行やインターシップの行き先さらには就職・進学先を決めたりといった大きなことまで、日々の出来事の一つ一つがイチイチちよっとした騒動になっていたように思います。つつい小言やイヤミが出てしまうことがよくありました。

「言うことがお母さんみたいじゃ！」と言われたこともありました。私も未熟なのでくたびれてイライラしてしまうときもありましたが、2年経って少し成長できたと思います。同じ4・5年の担任をやるにしても、このクラスの担任でよかったなと思っています。

面と向かっては言わないかもしれませんが、学生達には感謝しています。

卒業式が過ぎるとすぐに4月からの新生活が始まります。多くの学生は、5年間一緒だったクラスメートと離れて独りで新しい環境に飛び込みます。親許を離れる学生も少なくありません。すぐに慣れるのですが、やはり最初は寂しい思いをするかもしれません。そんなときはクラスメート同士で励ましあってもらいたいものです。

そして時間に余裕ができたなら、高専にも顔を見せに来て近況を教えてください。クラスメートの待ち合わせ場所に私の教員室を使ってもらっても構いません。そのときはまた小言とイヤミを聞くことになるかもしれませんが。



平成24年4月25日呉高専日誌より

## 建築学科2年 建築設計製図Ⅱの授業風景

建築学科2年担任 西宮 善幸

4月25日(水)建築学科2年建築設計製図Ⅱの授業風景です。私たちの建築設計製図の授業を見てください。

本格的な設計製図は初めてです。また設計製図、今日は振替授業となっており今週二度目の授業で3時間通しの授業大変疲れ、集中力が持続できません。それに加え今日は、オーストラリアの学生が授業見学本校に来校され、大変な日でした。でも楽し

かったです。

第一課題は、「木造軸組住宅の図面の見方を理解し、平面図、立面図、断面図、床伏せ図などの描き方や手順を習得する」ことで、二階建木造住宅の模写課題です。



平成26年2月4日呉高専日誌より

## 建築学科3年生 「建築設計製図Ⅲ第3課題低層集合住宅の設計」講評会の様子

建築学分野 間瀬 実郎、岩城 考信



2月3日(月)に、建築学科3年生の「建築設計製図Ⅲ第3課題低層集合住宅の設計」の講評会を行いました。「住まいの持続性」をキーワードに、39名の学生が集合住宅を設計しました。

ゲストコメンテーターとして、本学科の教員のみならず、建築家の林健次郎先生、吉田豊先生、穂垣友康先生にも参加いただき、貴重なご意見を賜りました。

ゲストからは、良い建築や豊かな空間を実現すること、既存の町並みへ配慮した上での設計、共有空間と個人空間の調和、ま

た自ら問題を発見し解決すること、といった重要なご指摘をいただき、学生にとって大きな刺激になりました。

3年生の設計課題はこれが最後となります。3年生までに学んだことを土台に、4年生はさらに高度な設計を進めていって欲しいです。

平成26年10月17日呉高専日誌より

## 建築学科 特別見学旅行@沖縄 1日目報告

建築学科4年 青野 芽生

私達、建築学科4年は特別見学旅行として沖縄に行ってきました。

台風19号の影響で天候や交通の乱れが心配されましたが、幸い天気にも恵まれスケジュール通り沖縄に着くことができました。気温は25度と広島より5度高く、半袖が丁度いい暑さでした。

初日(14日)は那覇空港近くで沖縄そばの昼食をとったあとに、バスに載って「琉球村」に行きました。琉球村では沖縄の昔ながらの古民家の観賞

や工芸体験、伝統舞踊の迫力あるエッセーを見ました。村内は昔ながらの赤瓦の古民家があり、それぞれ沖縄県内各所から移築されてきたものだそうで、中には国登録有形文化財に指定されている家もありました。

そんな歴史ある古い家を移築して見事に再現させる建築技術にとっても感心しました。

楽しみながら学べたとても充実した一日でした。



## 5年間を振り返って

建築学科5年 早川 佳江



あっという間に、卒業を迎えます。入学した頃は15歳のまだまだ子供だったのに、成人を迎え、顔つきもみんな変わってきて大人に近づいたように思えます。

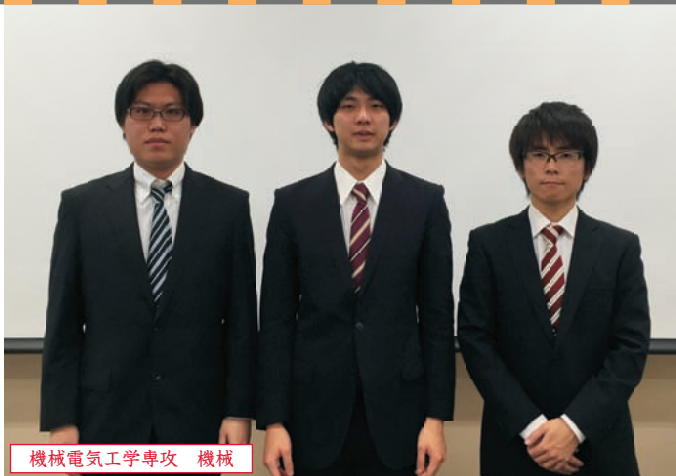
建築学科に入学してすぐに、自分は建築がむいてないと感じ、設計製図の授業は大変でした。3年、4年の頃は毎日レポートや製図提出に追われてよく留年せずに乗り越えてきたなと思います。でも、なんやかんや自分の将来したいことも見つけたり、行きたい会社にも内定をもらうことができたので、建築学科には行ってよかったなと思えます。

高専生活の5年間は濃すぎて、楽しくて、本当に充実していました。最近ではクラスのメンバーでご飯に行く機会も増え、きっと社会人になっても付き合っていくのだろうと思うくらい仲が良い

クラスです。

また、私たちのクラスで何よりも力をいれていたのが、年に2回行われる球技大会です。運がいいことにバレー部が5人もそろっており、バレーとバスケットボールの部門で5年間で11個の賞状を獲得し、2回総合優勝を勝ち取りました。私はいつも応援する立場でしたが、クラスが強くと応援も楽しくて、応援メンバーもほぼ最後の試合まで残って応援していました。球技大会のたびにクラスが団結して、仲が深まっていった気がします。この5年間で楽しいことも辛いことも経験して、大きく成長できたと思います。

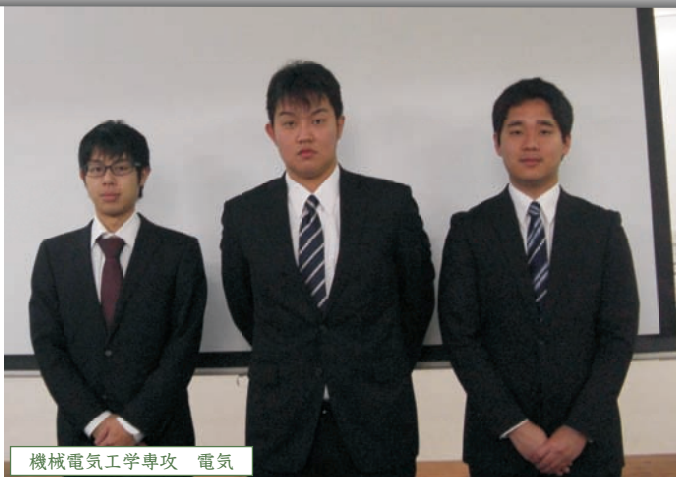
社会人になっても高専生活で培ってきたことを生かし、まだまだ成長しつづけられるように頑張ろうと思います。



機械電気工学専攻 機械



建設工学専攻 環境



機械電気工学専攻 電気



建設工学専攻 建築

## 修了 おめでとうございます

専攻科長 岩本 英久

専攻科修了生のみなさん、御修了おめでとうございます。呉高専の本科と専攻科を合わせて7年間の高専生活を送り、晴れやかに修了の日を迎えることができたみなさんに、心よりお祝い申し上げます。また、保護者のみなさまにおかれましても、今日まで温かいご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。これから社会へと巣立っていく人、あるいは大学院に進学し、更に学問を究める人など、それぞれの夢を具現化するために新たな一歩を踏み出しました。7年間の経験がみなさんの自信となって、社会に貢献することを願っています。

現実の社会に目を向けますと、一流電気メーカーが粉飾決算などで信用を失い、業績を悪化させ、社員をリストラしています。ある有名家電メーカーにおいては業績不振により海外資本に買収されるニュースが流れています。

また、大手鉄鋼会社はグローバルな競争力を高めるために子会社化などにより統合されています。入社した会社がいままで残っているとは限らず、また自分自身がいつ解雇されるか分からない状況であることとは否定できません。だからこそ、自分の夢と希望と信念をしっかり持って、仕事と向き合うこと、生きていくことが大切です。たとえリストラされても、新しい環境で生き抜く力は身に付けないといけません。

生き抜く力とは何か、それは自分の持つ専門性をあらゆる課題に適用し応用する精神と能力です。学校で学んだ知識や技術は役に立たないとよく言われますが、自らそのように思っている、身に付けた専門を適用し応用する機会にいつまでもたっても巡り合うことはないでしょう。

ポイントは考え方にあります。幸運にめぐり合う現象と

してセレンディビティという概念がありますが、それに近いものがあります。努力を続けていれば、思いもよらない結果を手にし、その結果の有効性に気が付くことができるでしょう。自分がやるべきことをコツコツ続けていれば、いずれオンリーワンになることもできるでしょう。多様な環境の中で、違いを感じる感性が目の前で起こる結果の中から法則を見つけ出すことができるよう、運としてあきらめるのではなく、自ら運命を切り開く努力を怠らないようにすれば、企業に頼らない人生を送ることができると思います。

一方で「自分の好きなことであれば続けられる」から自分のやりたいことをすればよいという考えを持っている人がいるかもしれません。これは仕事をするということにおいて間違っています。企業には、誰かがしなければならぬ仕事がたくさんあります。自分としてはやりたい仕事ではなくても、企業から要請されれば、まじめに取り組まなければならないかもしれません。入社直後はやりたい仕事に就くことができないことが多いですが、企業の中で誰かがやってくれるならいらない仕事に取り組むことで、自分に「できること」を増やしていければ、そのうちにやりたい仕事に近づくことができるでしょう。またその能力が生き抜く力にもなると思います。

終身雇用が崩れた日本社会で、一度就職すれば安泰ということはありません。社会に出てから本当の自分磨きが始まるのです。その荒波を乗り越える力はすでに持っているはずで、自信を持って、人や地域や世界のために活躍してください。



平成26年3月29日呉高専日誌より

## 環境都市工学科3年生と専攻科生が学会で発表しました

環境都市工学分野 及川 栄作

環境都市工学科3年の室佳史乃さんが3月27日から29日に岡山大学で開催された、日本農芸化学会のジュニア（高校生部門）でポスター発表しました。また、同学会で専攻科1年の馬越唯斗君が口頭発表しました。

学会参加者は、大学の教員や大学院生および企業の方が大半です。このような中で、二人とも初めての学会参加および発表でしたが、日頃研究した成果を、春休み中にポスターやパワーポイントに立派にまとめ上

げて臨みました。

質問にも的確に答えることができ、また、コメントをもらったり、分からないことを教えてもらったりして、大変よい勉強や刺激になったようです。今後ともがんばってください。



平成27年4月10日呉高専日誌より

## 2015年度European Microwave Conferenceに専攻科2年生の論文が採択される！

電気情報工学科



4月10日、今秋パリで開催される欧州マイクロ波国際会議に先端電磁波システム研究室専攻科2年生北林 智、寺本 慎両君の論文が採録されたとの報が届きました。

この国際会議は米国IEEE、アジア地区APMCとならぶ世界三大マイクロ波国際会議の一つとしてステータスが高く、厳格な査読を通して、世界中から投稿される論文のうち半分程度しか採択されません（採択率50%）。それだけ二人の研究内容が先端的かつ高水準に位置しているという証明にもなります。

幾度の失敗を繰り返しながら、苦難を克

服し、昼夜を惜しんで研究に没頭した結果が今回の論文採択につながりました。二人は9月8日から渡仏し、口頭発表を通して世界中の研究者と討論することになります。

この研究室のモットーの一つに『「現場」で「現物」を確認し「現実」を認識することで「現象」を把握、かつ解決のための新しい「原理・原則」を創造せよ』という指導教授の五ゲン主義が浸透しています。

今日も研究室のゼミを通じて新しい概念が生まれつつあります。

平成27年4月27日呉高専日誌より

## 平成27年度中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会

専攻科長補 川勝 望

平成27年度中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会が4月25日（土）～26日（日）に徳山工業高等専門学校で開催されました。本校から36名の専攻科生が参加し、研究発表及び情報交換を行いました。

この研究交流会では、中国地方と四国地方の高専に在籍する専攻科生が一堂に会し、日頃の研究成果を発表します。今年度は専攻科2年生10名に加えて、専攻科1年生の希望者12名も発表を行いました。いずれも本科5年生から1年間以上研究している内容ですので、発表者は自信を持って発表してい

たのが印象的でした。

また、本校の学生が他高専の発表に対して、積極的に質問していたことは教員にとってうれしい限りです。

参加した専攻科生の皆さんは、今回の研究交流会で受けた刺激を糧にさらに研究活動に精進して欲しいと思います。

最後に、この会を運営された徳山高専の関係者の皆様、並びに各高専の実行委員の学生の皆様、さらに休日にも関わらず専攻科生の発表を見に来て下さった森野校長先生に感謝いたします。



平成27年5月16日呉高専日誌より

## 経営工学会平成27年度春季大会で専攻科生が発表

機械工学分野 岩本 英久



首都大学東京南大沢キャンパスにて、経営工学会平成27年度春季大会がありました。この学会で機械電気工学専攻2年の福本悠介君が「外科医による運動軌跡に基づく刺入動作の解析に関する研究」について、発表をしました。

この学会は経営工学に関する教育者が全国から集まり、生産現場をフィールドとして、幅広くかつ深く議論する場です。発表者は大学や企業の研究者が中心ですが、一部、学生も参加しています。

参加する学生の多くは大学院生で、福本君のような専攻科生はほかに見当たりませ

んでした。もしかしたら、最年少の発表だったかもしれません。

本人の発表に対するフロアからは「被験者となった外科医の感想は？」、「クラスタリングで分類した後のデータの中で、外科医が意図しなかったデータを除外すれば、もっと良い結果が得られたのではないかな？」などの質問や指摘があり、とても有意義な議論ができました。

本人は「とても緊張しました」と言っていました。今日の経験をこれからの研究活動に役立ててもらいたいと思います。

# 進路速報

## 専攻科

平成27年度の進路において、就職希望者は8名、進学希望は1名でした。公務員を選択した学生は3名で、変化の激しい社会の中でも安定している公務員を選んだ学生が多かったです。民間企業は5名で、大手自動車メーカーからリアルロボットバトルで有名なロボットメーカーまで多彩な企業に活躍の場を広げており、学生が「やりたい」と思っている仕事に就いています。大学院進学先は1名に留まりましたが、推薦で大学院に進学する道もありますので、今後に期待したいと思います。

## 機械工学科

進学先としては、阪大・神戸大・筑波大・東京農工大・豊橋技大・富山大・佐賀大の各大学に1名ずつの計7名、呉高专専攻科に7名の合計14名が進学し進学率は36%であった。例年同様、六月から九月にかけて、学生達は進学活動を完了することができた。一方、就職先としては、マツダに3名、マツダE&T・花王・旭化成・JFEスチールの各社に2名ずつと、一企業に複数名の内定者が昨年度と同様に目立った。例年同様三月から八月にかけて、学生達は就職活動を完了することができた。

## 電気情報工学科

電気情報工学科の進路状況は、学生数40名に対して就職35名(88%)、進学5名(12%)で、進学が例年に比べて非常に少ない年になりました。就職先の業種は、電力・ガス・鉄道のインフラが12名(34%)と根強い人気が続く、鉄鋼・自動車・造船等の製造が10名(29%)と多めです。電機や精密機器の製造に6名(17%)、その他の製造が3名(9%)、情報通信は2名(6%)で少ない状況です。IT業界をはじめ多くの企業で採用意欲が高まってきており、その要望に応えきれない状況です。

## 環境都市工学科

本学科では、卒業予定者37名のうち、就職が29名、進学が8名で、進学がやや少な目であった。就職先は、国土交通省や呉市などの公務員4名、中国電力やJR東海などの公益企業8名、五洋建設や横河ブリッジなどの建設系企業9名、いであや基礎地盤コンサルタンツなどの建設・環境コンサルタント4名、オルガノや富士通などその他の企業4名であった。進学先は、本校専攻科6名、大阪大学と豊橋技術科学大学が各1名であった。公務員の内定は遅いもので11月であったが、それ以外は全員夏過ぎに進路が内定した。

## 建築学科

建築学科の進路状況は、学生数34人に対して就職が21人(62%)、進学が13人(38%)であって、例年と比べて進学学生がやや多い年になりました。就職先は、大林組や竹中工務店などのゼネコンに7名、建築設備系企業に3名、電力や鉄道などインフラ系企業に3名、大手メーカーの建築・施設部門に3名などでした。建築業界の求人意欲は男女を問わず非常に高く、今年もその要望に応えきれないほどでした。進学先は本校専攻科の7人を最多に、横浜国立大や筑波大、熊本大などでした。

■表1 平成27年度専攻科修了生就職予定先一覧(H28年1月現在)

就職先	本社地域
国土交通省中国地方整備局	東京都
広島市職員	広島市
福山市職員	福山市
株式会社アスパーク	大阪市
株式会社 イシダ	京都市
株式会社 サンエー・ビーディー	東京都
株式会社 浜野製作所	東京都
マツダ株式会社	安芸郡

(50音順)

■表2 平成27年度専攻科修了生進学予定先一覧(H28年1月現在)

進学先	地域
豊橋技術科学大学大学院	愛知県

■表3 平成27年度本科卒業生就職予定先一覧(H28年1月現在)

学科等 企業名	専攻科				本社地域
	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	
国家公務員(Ⅱ種)			○		東京都
呉市職員	○		○		呉市
東京都職員			○		東京都
廿日市市職員				○	廿日市市
広島市職員			○		広島市
Coltテクノロジーサービス株式会社		○			東京都
JFEスチール株式会社	○	○			福山市
JFE電機株式会社		○			東京都
旭化成株式会社	○				東京都
アズビル株式会社				○	東京都
アルストムパワーージャパン株式会社	○				神戸市
いであ株式会社			○		東京都
今治造船株式会社		○			愛媛県
大阪ガス株式会社		○	○		大阪市
オルガノ株式会社			○		東京都
花王株式会社	○	○			東京都
鹿島クレス株式会社				○	東京都
株式会社IHI	○				東京都
株式会社 JFE設計			○	○	東京都



# 進路速報

企業名	学科等	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	本社地域
株式会社NHKメディアテクノロジー			○			東京都
株式会社 NIPPO				○		東京都
株式会社NTTファシリティーズ			○			東京都
株式会社大林組					○	東京都
株式会社京都製作所		○				京都市
株式会社 ジェイベック			○			東京都
株式会社 銭高組					○	大阪市
株式会社 竹中工務店					○	大阪市
株式会社 増岡組					○	東京都
株式会社マツダE&T		○	○			広島市
株式会社 横河ブリッジ				○		東京都
株式会社三越伊勢丹プロパティ・デザイン					○	東京都
株式会社 明電舎			○			東京都
関西電力株式会社			○	○		大阪市
キヤノンマーケティングジャパン株式会社			○			東京都
九州旅客鉄道株式会社					○	福岡市
基礎地盤コンサルタンツ株式会社				○		東京都
五洋建設株式会社				○	○	東京都
三機工業株式会社			○	○		東京都
ショーボンド建設株式会社				○		東京都
新菱冷熱工業株式会社					○	東京都
ジャパンマリユナイテッド株式会社		○	○			東京都
セイコーエプソン株式会社		○				長野県
全日本空輸株式会社			○			東京都
ダイキン工業株式会社		○	○			大阪市
大東建託株式会社					○	東京都
大和ハウス工業株式会社					○	大阪市
中国化薬株式会社			○			呉市
中国高圧コンクリート工業株式会社				○		広島市
中国電力株式会社		○	○	○		広島市
中電技術コンサルタント株式会社			○			広島市
中部電力株式会社			○			名古屋市
千代田化工建設株式会社		○				横浜市
東海旅客鉄道株式会社			○	○		名古屋市
東京ガス株式会社			○			東京都
東京電力株式会社			○			東京都
西日本高速道路ファシリティーズ株式会社					○	大阪府
西日本旅客鉄道株式会社		○				大阪市
西日本高速道路エンジニアリング 中国株式会社				○		広島市
西日本高速道路株式会社				○		大阪市
西日本高速道路メンテナンス中国株式会社				○		広島市
日鉄住金テックスエンジ株式会社					○	東京都
パナソニック株式会社 AVCネットワークス社			○			大阪府
パナソニック株式会社 アプライアンス社			○			滋賀県
富士通株式会社				○		東京都

企業名	学科等	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	本社地域
マツダ株式会社		○	○			安芸郡
三浦工業株式会社		○				愛媛県
三井ホーム株式会社					○	東京都
三菱地所コミュニティ株式会社					○	東京都
三菱電機ビルテクノサービス株式会社		○	○			東京都
リヨービ株式会社		○				府中市

(50音順)

■表4 平成27年度本科卒業生進学予定先一覧（H28年1月現在）

企業名	学科等	機械工学科	電気情報工学科	環境都市工学科	建築学科	所在地
呉工業高等専門学校専攻科		○	○	○	○	呉市

大阪大学	○			○		大阪府
熊本大学	○				○	熊本県
高知大学			○			高知県
神戸大学		○				兵庫県
筑波大学		○			○	茨城県
東京農工大学		○				東京都
富山大学		○				富山県
豊橋技術科学大学		○		○	○	愛知県
広島大学			○			東広島市
横浜国立大学					○	神奈川県

滋賀県立大学					○	滋賀県
--------	--	--	--	--	---	-----

神戸芸術工科大学					○	兵庫県
----------	--	--	--	--	---	-----

(50音順)

平成27年9月8日呉高専日誌より

「先端工学(修養)特講」初日①講義開始！KEKの研究に迫る

機械工学分野 山田 宏



将来、技術・研究開発職を生業とすることを希望する学生を対象に、従前の専攻科専門科目「先端工学」を高度化した内容を、ノーベル賞受賞者を輩出している高エネルギー加速器研究機構（KEK）の現地に於いて学修させる「先端工学（修養）特講」を開講、実施しました。

選抜された高い学修意欲と学力を有した受講生（敬称略）は、専攻科1年幾久健、臼井颯馬、川手大樹、本科4年有尾隆宏、大内喜脩、守本一心の6名です。また、彼らに難解な量子物理学を解説して頂く為に、加速器科学の権威である遠藤一太前校長に、ご無理を言ってご帯同頂きました。皆、これから初めて体験する高度研究機関での集

中講義への期待感が、強く感じられました。小職も、東北大金研の院生として、前身の高エネルギー物理学研究所の頃から関わりがあり、感慨も一入でした。

特講テーマ選定や講師選任等の企画・諸手配、更には付きっきりでご対応下さった山野井豊先生のお出迎えを受け、早速、講義開始です。講師は、総研大の道園真一郎先生です。受講生にとって全く未知の分野を、平易にご教授下さいました。

授業後、学修意欲旺盛な受講生達は、遠藤先生を取り囲み、質問責めにしておりました。本校生を熟知されている先生のご教示により、一層理解が深まったことでしょう。

平成27年9月11日呉高専日誌より

大連大学学術交流 1日目・2日目

電気情報工学分野 井上 浩孝

9月9日（水）から18日（金）まで、大連大学に電気情報工学科5年の村本瞭真君、安井大輔君の2名を引率して行ってきました。1日目・2日目の様子をご紹介します。

9月10日（木）午前は学生達は大連大学の校内見学をし、教員間では来年度の学術交流について話し合いました。午後は文化祭の開会式を見学しました。学生数1万人以上の総合大学の文化祭の開会式、スケールが大きかったです。

9月11日（金）、午前は新1年生の軍

事訓練発表会を見学しました。各学科に相当する学院ごとに騎手を先頭に一糸乱れぬ行進、圧巻でした。

中国ではすべての高校、大学で新1年生を対象に軍事訓練が義務付けられているそうです。その後、日本語文化学院副院長の林先生の案内で博物館を見学しました。

最後になりましたが、到着初日に歓迎会を開催して下さいました大連大学情報工学院の郭先生、黄先生、白先生、李君に感謝します。



平成27年9月21日呉高専日誌より

阿賀まちづくりグループ・AGAiIn まち歩きイベントのトライアル実施

環境都市工学科5年 山下 太郎



私たちAGAiInは、インキュベーションワークの一環で、阿賀地区を元気にするためのまちづくり活動を企画し、実践しています。

今年は、阿賀のまちを楽しく歩きながら、阿賀の様々な魅力や歴史等を住民に知っていただくイベント「わがまち阿賀まこちんなまち！“食べて歩いて阿賀散歩”」の開催を計画しており、現在準備を進めています。

そこで、9月21日（月）に本番に向けてのトライアルを実施しました。阿賀地区に住む小学生3名、中学生2名、保護者3名、呉高専環境都市工学科4年生3名に参加者としてご協力いただきました。

阿賀の伝統的な建築物や歴史等について学習しながら楽しく散歩していただきました。

その途中、廣光蒲鉾店で練り物（てんぷら）、久山でたこ焼きとおでんを食べていただき、阿賀のグルメも楽しんでいただきました。住吉神社では、スーパーボールすくい等で楽しみながら、自作紙芝居で阿賀の伝統行事「とんてことん」について学んでいただきました。

参加者には楽しかったとの評価をいただきましたが、課題もたくさん見つかることが出来ました。12月5日（土）の本番に向けて、しっかり準備を進めていきたいと思います。

平成27年9月26日呉高専日誌より

「呉エコフェスタ」に学ぶ

電気情報工学科5年 西山 貴将・環境都市工学科3年 赤木 大介・建築学科2年 葉名 悠生

インキュベーション授業「呉発！地球環境プロジェクト」のメンバー3名は、9月26日呉ポートピアで開催された「呉エコフェスタ」に参加してきました。この催しは、呉市内外の企業や団体が、自分たちが取り組んでいる環境問題について発表するイベントです。

僕たちが一番興味を持った取り組みは、「ミミズで肥料を作る」でした。ミミズが入った箱に生ごみを入れるだけで、ミミズが生ごみを分解して肥料にしてくれます。

また会場では、バッタやイモリなどに

触ったりできるイベントもありました。これらの生き物はすべて呉市内に生息しているのですが、中には絶滅危惧種の生き物もいました。

今回は、こうして見たり触ったりできましたが、環境破壊が進むと、このような体験すらできなくなります。

「呉発！地球環境プロジェクト」メンバーは、そのような事態を避けるために、今回学んだ環境破壊を食い止めるための知識や技術を活用して、呉から新たなプロジェクトを考えていこうと思います。





平成27年9月29日呉高専日誌より

## 学生寮役員交代式・総会

寮務主事 木原 滋哉

秋に開催される寮生会総会では、新旧の役員交代式が行われます。学生寮は、会長以下の役員がいないと、運営することができません。役員はとても重要な仕事を担っています。

旧役員の皆さん、1年間、本当にご苦労様でした。新会長・大久保拓くんから前会長・中井大介君に記念品が渡されました。さらに役員がしっかりすれば、学生寮はもっと過ごしやすい場所になると思います。

新役員の活躍に寮生一同大いに期待しています。

今年は5年に1度の国勢調査の年に当たります。総会のときに、国勢調査の調査票に各自記入してもらいました。自宅にいたら、保護者の方が記入されるのですが、学生寮では、一人ひとり記入することになります。社会と触れ合ったひとときでもありました。



平成27年9月30日呉高専日誌より

## 専攻科で4高専連携教育が始まりました

専攻科長 岩本 英久



後期から専攻科では、徳山高専・宇部高専・北九州高専の4高専が連携する教育が始まります。

連携する科目は「物質科学」、「線形代数」、「経営システム工学」、「生物圏科学」、「物理応用工学」です。

ビデオ会議システム(GI Net)と電子黒板システム(スマートボード)を用いて、遠隔授業を行います。9月30日(水)の1限は「経営システム工学」です。広島商船高専の先生方が視察に来られました。

他高専も注目する教育が本校を中心とし

て進められています。主導する先生たちの授業準備は大変で、ICT機器に不慣れなどところもあるため、授業進行がスムーズにいかないこともあるかもしれませんが、本校の学生が他高専の学生と交流できることは楽しみな点です。

今後も他高専の教員と協働しながら講義を構成していきますので、期待してください。

平成27年10月7日呉高専日誌より

## 阿賀まちづくりグループ・AGAiin 呉市立原小学校のまちづくり学習を訪問

環境都市工学科5年 山下 太郎

私たちAGAiinは、インキュベーションワークの一環で、阿賀地区を元気にするためのまちづくり活動を企画し、実践しています。

今日は、呉市立原小学校の6年生実施しているまちづくり学習の授業(総合的な学習の時間)に、5名(学生4名と山岡先生)のメンバーで参加してきました。まず、リーダーの私がAGAiinの活動について紹介しました。

その後、児童から私たちの発表や活動に対してたくさんの質問をいただきました。後半は児童たちが考えるまちづくり

のアイデアについてアドバイスをさせていただきました。

今回の訪問では、現実的な制約条件を把握してアイデアを提案している点に驚きました。

また、担任の先生の授業の進め方や手法が、日頃のミーティングの参考になりました。礼儀正しく、積極的な児童ばかりで、たくさんの刺激を受けることができました。

阿賀のまちづくりに取り組む仲間として、今後も連携してお互いの取組みをより良いものにしていきたいと思っています。



平成27年10月11日呉高専日誌より

## インキュベーションワーク 現象数理学研究発表会で入賞

電気情報工学分野 板東 能生



10月11日に明治大学中野キャンパスにて行われた「第5回高校生による現象数理学研究発表会」にインキュベーションワーク「統計処理による物理現象解析」メンバーの環境都市工学科2年貞徳花音さん、加藤梨乃さんの2名が参加し、「ペットボトルロケットの飛行に関する数学的解析」のポスター発表部門にて「オーディエンス賞」をいただきました。

発表件数は27件で、筑波大附属駒場高校などのエリート進学校を押えての受賞とな

りました。

今回は準備不足もあり、来年のためにモチベーションを高める目的で参加しましたが、審査委員の先生方にも大変好評で、「こんなすごいことをやっているのにポスターは勿体無い、来年は口頭発表をするように」と声をかけていただきました。

来年は最優秀賞をいただけるよう、これからも頑張っていきたいと思っています。

# 10月

平成27年10月15日呉高専日誌より

## 3年生のステップキャンパス（1日目その1）

学生主事補 黒川 岳司



10月15日、16日の2日間で3年生のステップキャンパスが行われました。  
 昨年度から日程が2日間となり内容は一昨年度より充実したものになっていましたが、今年はさらに進化すべく、インキュベーションワークでもお世話になった中村大介氏に協力して頂き、クラス代表や各企画係の学生たちとともに春から企画を練ってきました。  
 ステップキャンパスの目的は変わっていませんが、それを達成するために掲げた今年のテーマは“一生懸命”で、学生の“一生懸命”を引き出すために2日間通じて各科混合のチーム・グループで各企画を競争形式で行うことになりました。つまり、今年の呉高専3年生でのNo.1チームの決定戦です。

1日目は、まず準備運動として全員でハイタッチ！でギネス記録に挑戦しました。ギネス記録には届きませんでしたが、一体感も出て良いすべり出しとなりました。  
 次はチーム・グループに分かれてローブリレーというワークで、ここから2日間に競争の始まりです。ローブリレーは5、6人のグループが手をつないで輪になり、ロープをいかに早く一周させるかを競うものです。チームワークのいいグループは11秒台で一周させていました。ちなみに先生チームは25秒台でした。  
 こうして2日間の熱い競争が始まりました。

平成27年10月16日呉高専日誌より

## 電気情報工学科4年生の特別見学

電気情報工学科4年担任 横沼 実雄

電気情報工学科4年生は10月13日（火）から10月16日（金）までの4日間、東京方面の特別見学に行ってきました。その概要報告です。  
 初日10月13日は、三菱電機ビルテクノサービス（株）教育センターを見学しました。見学後の説明会では、業務内容等に関して説明して下さいました。  
 2日目10月14日は、午前東京電力（株）川崎火力発電所、午後パナソニックセンター東京を見学しました。川崎発電所では高効率ガス火力としてMACC（More Advanced Combined Cycle）を採用、さらに高効率な火力発電所も建設中とのこと。運転中の見学後、高専出身者による説明もして頂きました。また、パナソニックセンターでは最新

家電や画像処理・認識を使った展示を見学しました。  
 3日目10月15日は、富士通（株）川崎工場を見学しました。説明会では、環境都市工学科出身の方と広島商船出身の方が細かく説明して下さいました。  
 最終日10月16日は、日産自動車（株）横浜工場のエンジン・ミュージアム見学のみの予定でしたが、御厚意により急速生産ラインの見学までさせて頂きました。写真は、見学後に展示中のリーフを中心にした集合写真です。  
 全体を通して、見学先の方々にとっても良くして頂き、クラス全員が楽しんでくれたと思います。



平成27年10月19日呉高専日誌より

## 機械工学科4年 特別見学旅行 in TOKYO

機械工学科4年担任 中迫 正一、人文社会系分野 佐賀野 健



10月13日（火）～16日（金）、機械工学科第4学年は特別見学旅行を実施しました。初日は、移動後、東京スカイツリーへ！地上350mの天望デッキにて記念撮影。  
 2日目は、新日鐵住金株式会社君津製鐵所です。点検中のため熱延ラインが見られなかったのは残念でしたが、世界最大級の高炉と線材ラインを見学させて頂いていただきました。  
 3日目は、本田技研工業株式会社埼玉製作所でステップワゴンの完成車工場を見学しました。窓ガラスの取り付

けや車体溶接のロボットは大変勉強になったと思います。  
 4日目は、学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」を見学し、帰路に着きました。  
 空き時間には、東京ディズニーランドや横浜中華街を訪れた学生も多く、充実した特別見学旅行になったのではないのでしょうか。  
 次年度はいよいよ就職・進学です。この旅行で見学した企業・施設を参考とし、次年度の就職活動の指針になればと感じています。

平成27年10月20日呉高専日誌より

## 3年生によるステップアップキャンパス(まとめ)

学生会広報委員 木村 颯（機械工学科3年）

10月15日16日にあった3年生によるステップアップキャンパスを生徒目線で振り返ります！  
 1日目は周りにいる人と出来るだけハイタッチという無茶振りでスタート。続くローブリレーはみんなで手をつなぎ、ロープをリレーするのだがこれがムズイ！しかし手をつないだりする事で自然とみんなの表情も軽くなっていきました！  
 そして迎えた料理大会。チーム毎にテーマに沿った料理を作ります。先生方にも食べていただき、料理の美味しさ、4学科の特徴、テーマに沿っているかなどで審査してもらいます。私達のチームは「成績が上がる料理」でパンケーキを作りました。生地に抹茶を混ぜたり、トッピングでさくらんぼを乗せたりし、色で学科を表現。アイスクリームもトッピングして先生方にも大好評でした！

結果私たちのチームは見事優勝！味はもちろんだが決め手は料理のプレゼンが良かったとのこと。料理でもおもてなしの心が大事ですね。  
 続く2日目はウォークラリー。呉高専から野呂山を登り下山後は川尻港を目指します。  
 9時頃に高専を出発し、約5時間後に川尻港に到着。料理大会の点数や登山のタイムなどから順位をつけ、表彰式を行い、ステキャンは幕を閉じました。  
 初対面の人とも多く関わる事になるステキャンは、社会に出た時に必要なコミュニケーション能力や、自主性を育てるためのいい経験になったと思います！  
 3年生のみんなや先生方、その他多くの関係者の方々、ほんとお疲れ様でした！





平成27年10月23日呉高専日誌より

## 機械工学科 4年 校外実習報告会

機械工学科4年担任 中迫 正一

10月23日(金)13:10より、機械工学科第4学年の校外実習報告会(夏季インターンシップ報告会)を開催しました。

校外実習は4学年の選択科目となっておりますが、本年は26名が参加しました。5月頃から履歴書やエントリーシートを作成し、夏季休業中に企業で経験した成果を発表してくれました。

就職を来年に控えた4学年において、企業における製造・設計・開発等の実務を体

験することにより、本校で修得した知識や技能を裏付けることができたのではないかと思います。

また、技術者及び社会人として成長するための自覚も芽生えたのではと期待しています。



平成27年10月26日呉高専日誌より

## 第4回スカイプ交流授業

人文社会系分野 上杉 裕子



10月26日(月)、4年外国語選択英語の授業にて、オーストラリアのラドフォード高校生たちと、6月以来久々に第4回スカイプ交流授業を行いました。

現在サマータイムにより、オーストラリアとの時差が2時間となっており、ラドフォード高校の学生はお昼休みだったにも関わらず、8名の日本語を学ぶ学生が参加してくれました。それで本校の学生も交替する必要なく、全員が1時間ずっとスカイプをすることができ、大変喜んでいました。トピックは「長期休暇に何をしたか」で、大いに盛り上がりました。

電気情報工学科 秦 拓馬  
とても楽しい会話ができた。でも簡単なことし

か聞けなかったし、答えられなかった。時間に余裕ができたなら英語にも力を入れたい。

電気情報工学科 松本 宗一郎  
最後に「私たちは友達ですか?」と聞かれた。もちろんYes!と答え、笑顔でスカイプを終えることができた。

建築学科 秋光 大地  
交換留学の時に来る人の話題が良い話題となった。外国人との会話が弾むととても楽しい。

嬉しいことに、これからはラドフォード高校とのスカイプの機会が増えそうです。学生がトピックについて事前に準備し、より効果的で楽しいスカイプができればと思っています。

平成27年10月29日呉高専日誌より

## 4年環境・建築 海外研修旅行 in 台湾

学生会広報委員 矢野 明日香 (建築学科4年)

10月12日(月)~15日(木)、4年環境都市工学科と建築学科は台湾にて海外研修旅行を実施しました。

初日は、お茶セミナーで烏龍茶の淹れ方を学びました。台湾の健康・美容などに良いお茶をレクチャーしていただきました。

2日目に建築学科は国立中央大学を訪問し、プレゼンを行いました。日本について紹介し、また、大学生の方に台湾の魅力を教えていただきました。自由散策の時間では大学生と一緒に、有名な台北101や中正紀念堂を観光しました。夜は士林夜市で夕食をとりながら自由散策しました。

3日目は、総統府内部見学、鹿島建設の現場見

学を行いました。鹿島建設株式会社台北支店にて、レクチャーを受けた後、マンション建設の現場を見学させていただきました。夜は九份にて夕食をとりました。赤ちょうちんがたくさん並んだ幻想的な街並みに感動しました。

4日目は、故宮博物院を見学し、有名な水玉白菜を実際に見ることができました。

その後忠烈祠を観光し、民芸品店にてお土産を買い、帰国しました。研修旅行を通して現地の学生と交流を深めることができ、また、台湾の歴史や文化について理解することができました。

最後にこの旅行の企画・引率をしてくださった先生方に感謝申し上げます。



平成27年10月29日呉高専日誌より

## 1年生インキュベーションワーク「混ぜるを科学するインペラー製作コンテスト」

招聘講師による講演会を実施

機械工学分野 高田 一貴



10月29日(木)の1年生インキュベーションワークで、株式会社神鋼環境ソリューションプロセス機器事業部の菊池雅彦技術部長をお迎えし、かくはん混合(ミキシング)に関する技術講演を行いました。

インキュベーションワークでは、流体を混ぜるということについて、効率よく、均一に混ぜることを目標として、一年生にかくはん用のインペラーを試作してもらうことにしています。

講演会では、かくはん機が幅広い分野で使われていること、多少難しい「かくはん流動」に関する技術論も披露いただきながら、どのようにすれば効率よく、均一に混ぜることができるか、それを実現するためのインペラーの形に関するヒントをいただきました。同時に引ウ素テンブン反応を

利用した着脱色法による混合試験も行い、混合時間をいくつかのインペラーで競わせました。用途や対象によって最適なインペラーがあることを実感しながらコンテストの対象である「水」に最も適したインペラーの形を各自が想像したのではないかと思います。

講演会での学習を踏まえ、今後、インペラーの形状決定、試作、性能試験、評価を行っていきます。斬新でありながらシンプル、高性能インペラーの発見を期待しています。作ったインペラーには名前も付けます。

この一連のワークを通じ、着想アイデアの可否を短時間で判定する手法を体験しつつ、時間との闘いである企業の開発業務の一端も垣間見てもらえたらと思います。

# 11-12月

平成27年11月4日呉高専日誌より

## 環境都市工学科 現場見学

環境都市工学科3年 島村 柚香



11月4日（木）に呉市にある平原水源地に現場見学に行きました。平原水源地では貯水用のPCタンクの建設現場を見させていただきました。PCタンクは綺麗な水を貯め各場所に適した量の水をおくる働きがあります。また余裕をもって貯水しておくことで水質事故、施設事故、漏水などの際に応急給水を行うことができます。私たちは建設途中のPCタンクに登らせていただきました。約7メートル高さがありとてもスリルがありました。

また専門的な建設の方法も見ることができました。現場見学では初めての体験がたくさんできました。現場で働いている人たちの声も聞いて自分の将来について考えることができました。また現場見学にいきたいです。最後になりましたが、現場見学を企画してくださった銭高組様ならびに関係の方々にお礼を申し上げます。

平成27年11月6日呉高専日誌より

## 環境都市工学科1年生 秋晴れの下での測量実習

環境都市工学分野 山岡 俊一

1年生は4月に入学してから、早いもので約7ヶ月が経過しました。入学当初と変わらず、元気に毎日を過ごしているようです。今回は環境都市工学科1年生の実験実習（測量）の様子を紹介します。実習内容は、平板測量の技術を使って、校内の地図を作成するというものです。写真にあるように、三脚の上に木製の板（測板）を固定し、アリダードという測量機器を使用してトレーシングペーパーに地図を描いていきます。

この日（11月6日）は秋晴れで大変さわやかな測量日和でした。澄んだ青空を見上げると、2本のひこうき雲がクロスしていました。澄んだ青空クロスしたひこうき雲、紅葉、そして学生達の測量風景（？）が、とてもマッチしていました。これから、少しずつ寒くなっていきますが、体調に気を付けて元気に頑張ってくださいませ！



平成27年11月14日呉高専日誌より

## 2015みんなの夢・アイデアコンテスト ベストアイデア賞受賞

機械工学分野 岩本 英久



機械工学科4年の浦島君が2015みんなの夢・アイデアコンテスト（大和ミュージアム開催）の高校・大学の部でベストアイデア賞を受賞しました。インキュベーションワークの「企業経営や起業家を目指す技術者の育成（吉川・岩本）」で考案したアイデアを投稿した成果です。プラン名は「声をよみとーる」です。授業中に先生が言っていることを聞き逃すようなことがあっても、この「よみとーる」があれば、簡単に記録

できてノートのように管理できるそうです。高専ではこのような「あったらいいな」というアイデアを形にする技術や知識を修得できるはずですよ。これからは、浦島君がこのアイデアを形にする番です。ぜひ実現してほしいと思います。

平成27年12月1日呉高専日誌より

## 環境都市工学科4年生への広島県内建設業界の説明会

環境都市工学分野 森脇 武夫

12月3日（木）3・4時限目に環境都市工学科4年生に対して「広島県内建設業界を知ってもらう説明会」を開催しました。この説明会は、就職活動を来年に控えた4年生に、道路やダム、港などの社会資本整備にたずさわる広島県内の建設業界の現状や魅力を知ってもらい、進路選択の参考にしてもらうために企画されたものです。まず、広島県土木建築局技術企画課の牧野克真様から広島県における社会資本整備の状況について説明していただきました。次に、広島県測量設計業協会の河野吉次郎様から建設コンサルタント業界の魅力について説明していただきました。最後に、広島建設青年交流協会の伏見光暁様から広

島県内の建設業の紹介をしていただきました。3名の説明後、本校のOBである広島県土木建築局技術企画課の吉田隆則様（平成8年卒業）も交えて質問応答があり、高齢化社会において建設業が果たすべき役割とは何か、転勤はどの程度あるのか、就職先を選ぶときの考え方などについて質問があり、適切な助言をいただきました。先輩方から熱い話を聞いて将来を考えるうえで大変役立つと思われま。貴重な話をしていただきました講師の先生方ならびにご参加いただきました広島県土木建築局、広島県測量設計業協会、広島建設青年交流協会の皆様に感謝申し上げます。





平成27年12月17日呉高専日誌より

## さよならエマさん、こんにちはアンバーさん&トーマス君 (ラドフォード高校からの交換留学生)

国際交流室員 加納 誠二

4月から本校で交換留学生として勉強していたエマさんが12月12日で帰国することになり、11日にご両親と最後のご挨拶がられました。最後まで本校での学校生活がたのしかったので、帰りたくないと言っていました。ご両親からも貴重な体験をさせて頂いて大変感謝していますと校長先生に感謝の意が述べられました。校長先生からも夢の実現に向けてこれからもがんばってくださいとの挨拶がありました。

また同日から来年1月28日までの約7週間、本校の建築学科にアンバーさん(2年生)

とトーマス君(3年生)が交換留学生としてやってきました。両名とも以前短期留学で本校を訪れ、建築家志望ということもあり、本校への留学を希望したそうです。将来に向けていい経験になることを期待しています。

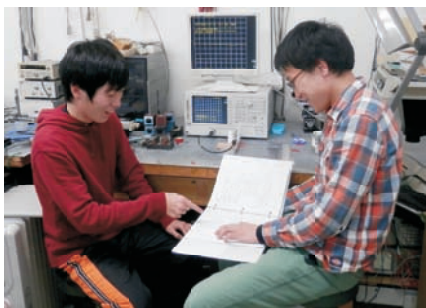
本校の学生たちにもいい刺激になると思います。これを機にグローバルに活躍する自分を想像し、成長してくれることを期待しています。



平成28年1月14日呉高専日誌より

## インキュベーションワークで生まれた着想がJST事業として採択される

先端電磁波システム研究室



本研究室では2014年8月の広島市土砂災害に深い悲しみを覚え、電磁波を利用した安全・安心なインフラ構築を目指した課題を模索していましたが、インキュベーションワークと呼ばれる創造演習授業に研究室学生の他、機械や土木を専攻する学生達が配属されたことを契機として、土砂災害やインフラ倒壊を未然に予知するシステムをこの授業の中で展開してきました。

先行知財調査とそれをもとにしたパテントマップによる開発戦略策定といった一連の実習の中で、新しいインフラ倒壊早期検知システムを学生達が考案、この内容を研究に発

展させ、新原理に基づく「チップレス高感度センシング」の発想を得ました。

今回この着想をJST(国立研究開発法人科学技術振興機構)マッチングプランナープログラム探索試験課題として応募したところ、丁度インキュベーションワーク発表会最中の1月14日15時31分に、採択内定のメールが届きました。

後日担当者に伺ったところ、採択率は20%、中国地区における採択件数は2件と狭き門のようでしたが、若い学生たちの発想と、研究室学生のたゆまぬ努力が今回の朗報につながったといえます。

平成28年1月26日呉高専日誌より

## Pepperが来ました！図書館棟で待っています

電気情報工学分野 山脇 正雄、藤井 敏則

少し先の世界の一端を覗くために、最先端のロボット技術が搭載されたPepperを導入しました。

1月22日から図書館棟ロビーで、本校の特別フェローとして皆さんに接してもらう事になり、任命式を行いました。

森野校長先生から任命書を受け取り、自己紹介を行いました。もちろん、事前にインストールしたプログラム通りに任務を果たしてもらいましたが、無線通信にまだ問題があり、なかなか言う事を聞いてもらえませんでした。

Pepperは遠くない未来に私たちの生活に

入ってくるロボットの一つの例になると思われます。

Pepperを通して、最先端のロボット技術を学んだり、利用方法を考える事にしたいと思います。日中はいつでも会えるようにしますので、皆さんにも触れてもらいたいと思います。

かわいいロボットですので、やさしく扱ってくださいね。

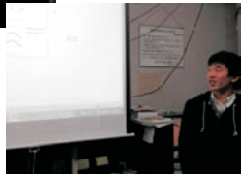
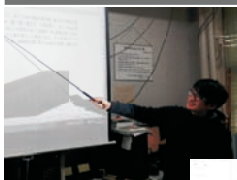
※呉高専ではソフトバンクロボティクスのPepperを活用し、独自に実施しています。



平成28年2月2日呉高専日誌より

## 本科4年生研究室に配属

先端電磁波システム研究室



電気情報工学科では、早いうちから学生に研究開発マインドを体得させるため、前期末試験終了後から本科4年生を各研究室に配属します。今年度は熊原宏?君と迫川智貴君の二名が、昨年の8月6日から本研究室に所属されました。

両名これからの研究室生活のために、以下の教育プログラムをこなすことになります。

1. 9月15日～26日：伝送回路理論の集中講義(30時間コース)
2. 毎週火～金曜日昼休憩時：英語力向上トレーニング
3. 毎週木曜日8時35分～10時25分、土曜日13時30分以降：各研究テーマ実施

この半年間の成果として、

2の英語力向上トレーニングに関して、両名TOEICスコアが研究室配属前と比べて14%以上アップし、本校専攻科推薦入試必須スコアをクリアしました。

1と3の活動に関して

熊原君の研究に進展があり、今春3月14～18日を会期とし、九州大学伊都キャンパスで開催される電子情報通信学会総合大会マイクロ波応用部門で発表することになりました。

今後も両名の成長に期待したいと思います。

平成27年9月3日呉高専日誌より

### テニス部平成27年度夏季合宿

テニス部 牛尾 優太 (環境都市工学科3年)



8月29日(土)~9月2日(水)に、テニス部の合宿を江田島青少年交流の家で実施しました。1年生11名、2年生4名、3年生4名の総勢19名が参加しました。毎年恒例の夏季合宿です。今年残念ながら天候に恵まれず、テニスコートで練習ができたのは初日午後、2日目、そして最終日午前中の期間のほぼ半分程度となってしまいました。雨天時は屋内の武道場で素振り、筋トレ、フォーム確認など日頃あまり出来ないことにじっくりと取り組みまし

た。下級生は皆、上級生の指導を熱心に仰いでいました。参加した部員は日頃の課題を合宿に持ち込み、それぞれの成果を携えて学校に戻ります。後期も対外試合が多く実施されますので、合宿で得られた成果を大いに発揮し、目標に向かって勝利を積み上げていきたいと願っております。皆様、引き続きテニス部への応援を宜しく御願いたします。

平成27年9月3日呉高専日誌より

### ワンダーフォーゲル・スキー部 毎年恒例の富士山登山

ワンダーフォーゲル・スキー部顧問 佐賀野 健

9月2日に安芸阿賀からJR普通電車(5:56発)に乗って、8回の乗り換えを経て静岡県富士市に19:10に到着。次の日の富士山登山に備えます。9月3日。富士駅から富士宮新五合目までバスで行き、しばらく体を慣らしてから登山をスタートします。しかし、さあスタートってところで、登山ガイドの人から「今日は風が強く8合目より上は危険で登れないよ」との忠告がありました。ただ、次の日には天候は回復するとの予報であったので、とりあえず様

子を見ながら登山してみようと言うことになりました。しかし、7合目で風速約20m/sの暴風雨に巻き込まれ、登山は困難と判断し下山しました。「野外活動では引き返す勇気も必要。また、今度登ろう」。今年野呂山や宮島でのキャンプも大雨・洪水の警報により中止になったため、富士山は頂上まで行きたかったです。応援してくださった皆さん、ありがとうございました。また、来年チャレンジしたいと思います。



平成27年9月5日呉高専日誌より

### ソフトテニス部 呉地区高校新人選手権大会団体戦結果報告

ソフトテニス部顧問 井上 浩孝



9月5日(土)、10時より呉市総合スポーツセンターテニスコートにて呉地区高校ソフトテニス新人選手権大会団体戦が開催されました。本校ソフトテニス部は9月1日(火)から合宿を行い、同大会にのぞみました。準々決勝にて、男子は呉青山高校に、女子は呉昭和高校にそれぞれ勝ち、準決勝に進出し県大会出場を決めました。準決勝にて、男子は呉港高校に、女子は呉宮原高校にそれぞれ対戦成績0対2で負け、3位決定戦にまわりました。3位決定戦にて、男子は呉工業高校に対戦成績2対0で勝ち、3位となりましたが、女子は市立呉高校に負け、4位という結果に終わりました。

団体戦の結果は次のようになりました。

- 男子 優勝：呉港高校 2位：呉宮原高  
3位：呉高専 4位：呉工業高校
- 女子 優勝：清水ヶ丘高校 2位：呉宮原高校  
3位：市立呉高校 4位：呉高専

多数の保護者のみなさま、上級生の部員たち、そしてOBの原田君が応援に来てくださいました。あたたかいご声援、どうもありがとうございました。

平成27年9月13日呉高専日誌より

### バスケットボール部県大会でベスト16進出!

バスケットボール部顧問 及川 栄作

バスケットボール部(男子)が、平成27年度広島県高等学校秋季大会でベスト16校(参加101校)に入りました。呉高専のバスケット部は、1年生の入部者が多かった2年前に高体連へ初めて加盟しました。この度は、当時1年生(現3年生)が中心のメンバーになり、2年間コーチの熱心な指導のもと、練習に励んできたことから達成できたものと思います。この後も、ベスト8をかけて10月17日に試合が予定されています。皆さんも応援をお願いします。

- 試合結果
- 9月12日(土) 呉高専(101) 因島(14)
- 9月13日(日) 呉高専(73) 府中(57)
- 9月13日(日) 呉高専(77) 崇徳(60)





平成27年9月15日呉高専日誌より

## ソフトテニス女子ダブルス全国優勝で呉市長表敬訪問

学生主事 西坂 強

9月15日に全国高専体育大会ソフトテニス女子ダブルスで全国優勝した矢野明日香さん・矢野遥香さんと木下コーチから小村市長へ大会報告をさせて頂くため表敬訪問致しましたので、その内容を紹介します。

矢野さん達と木下コーチから今大会の試合結果とその経緯を説明させて頂き、3年連続全国大会出場で、昨年は準決勝で敗退、その悔しさをバネに1年間かけて、技術とメンタルの両方を毎日欠かさず鍛錬したことが、全国優勝の大きなポイントになったことを話させて頂いている間、小村市長は親しみやすい笑顔で聞いていただきました。

また、小村市長からスポーツに取り組む大

切さをお聞きし、呉市のスポーツ振興に大変強い志があることを訪問者全員が感じました。そして、来年は全国優勝2連覇をしてまたお伺いする約束をし、和やかな報告ができました。

矢野明日香さん、矢野遥香さんペアは既に来年を見据えており、ソフトテニス女子ダブルスで全国連覇はまだ達成していないとのことで、歴史に残る挑戦をする姿勢に心を打たれてしまいました。

最後に、小村市長との面談にご配慮いただきましたスポンサー振興課の青山様に大変感謝いたします。



平成27年9月20日呉高専日誌より

## ETロボコン中四国地区大会 準優勝

計算機部 西山 拓海 (電気情報工学科2年)



2015年9月20日、福山大学「宮地茂記念館」にて、ETロボコン2015中四国地区大会が開催されました。

今年はデベロッパー部門プライマリークラスとアドバンストクラス、イノベーター部門に合わせて24チームが参加し、学生や社会人という垣根を越えてプログラミング技能を競い合いました。計算機部は「計算機くれ」として、デベロッパー部門プライマリークラスに4年生2人、2年生4人のチームで参加しました。

大会前の試走でロボットが正常に動かないなどのトラブルもありましたが、プログ

ラムに修正を加え、その結果準優勝をすることが出来ました。

私たちは11月18、19日に横浜で行われるチャンピオンシップ大会(全国大会)に出場する権利を得ました。チーム一丸となり、良い結果を出せるよう頑張りますので応援をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、呉高専計算機部を支えてくださる皆様に感謝いたします。

平成27年9月26日呉高専日誌より

## インターアクトクラブ車いす清掃活動

インターアクトクラブ顧問 光井 周平

呉高専インターアクトクラブでは、毎年2回、呉中央と阿賀のコスモス園での車いす清掃活動を行っています。6月の呉中央コスモス園で活動に続き、9月26日(土)に阿賀コスモス園での車いす清掃活動を実施しました。今回は8名の学生が参加しました。

参加した学生たちはふだんお年寄りが使っておられる車いすを1台ずつぞうきんやブラシを使ってきれいにしていきました。施設の方や利用者の方から「ありがとう」

の声を聞いて、ボランティア活動の意義を感じてくれたのではないかと思います。

お忙しい中活動の場を提供していただきました阿賀コスモス園の皆様、応援に駆け付けてくださいました呉東ロータリークラブのみなさま、ありがとうございました。



平成27年9月27日呉高専日誌より

## バドミントン部 新人戦呉地区大会報告

バドミントン部顧問 大和 義昭



9月26日と27日に広高校(男子)と市立呉高校(女子)を会場に行われた平成27年度の新人バドミントン大会に参加してきました。

結果は、男子シングルスで坂本雅弥君(電気情報1年)が見事優勝しました。他にも男子シングルスでは松木聖也君(建築2年)が4位に入賞し、鹿谷智也君(機械2年)も6位に入りました。また、男子ダブルスでは松木聖也君と鹿谷智也君が2位と健闘しました。

女子も負けていません。女子ダブルスで

石塚仁奈さんと向井里歩さん(どちらも建築2年)のペアが3位に、石塚さんはシングルスでも5位に入賞しました。特にシングルスの参加者数が100名を越える女子の大会での上位入賞は大変価値があります。

上記の選手たちは11月に開かれる県大会に出場します。また男子は上記以外の選手も合わせ団体戦にも出場する予定です。

後期中間試験の勉強との両立も大変ですが、是非頑張ってもらいたいです。

## 10月

平成27年10月13日呉高専日誌より

### アイデア対決・全国高専ロボコン2015中国地区大会

ロボット製作クラブ部長 棟居 拓海（機械工学科4年）



平成27年10月11日（日）、呉市オーカーリーナ、NHKアイデア対決・全国高専ロボコン2015中国地区大会。今年のテーマは「輪花線乱」、3分間で太さ高さの異なる9本のボールにロボットが輪を投げ入れ得点を競います。呉高専Aチームの「Infinity-1」は1回戦、9本のボールに輪を入れ、1'29"でVゴールによる完全勝利、2回戦はトラブルにより敗退。同じく、Bチームの「降輪！なげわ君」は1回戦7点を先取り圧勝、2回戦はトラブルにより敗退。

両チームとも2回戦で敗退はしたものの、1回戦目で、ロボットの特徴を十分にアピールすることができ、Aチームは「技術賞」、B

チームは「特別賞（マブチモーター株式会社）」を獲得しました。

さらに嬉しいことに、Aチームは「戦艦大和の主砲の動作を連想させる2連独立式発射機構の技術力」と「投げ輪を絡め捕り成長するVゴール完全防御システムの奇抜なアイデア」が高く評価され「全国大会推薦」を頂きました。昨年に引き続き2年連続の全国大会出場となりました。

学内外より応援して頂いた関係の皆様方、引き続きまして、11月22日（日）の全国大会（東京・両国国技館）での優勝に向け、応援を宜しくお願いいたします！

平成27年10月18日呉高専日誌より

### 第63回呉地区高等学校総合演劇大会に出場しました

演劇部 岩崎 銀次郎（環境都市工学科1年）

演劇部は、10月18日（日）川尻のペイノロホールでおこなわれた第63回呉地区高等学校総合演劇大会に出場しました。上演作は間谷汐里さん（機械工学科4年）による創作劇「夢を見よ〜シンデレラ〜」です。

自分は、初めての大会でとても緊張しました。本番前の練習でも学校によって、発声や練習の仕方が違い、とても勉強になりました。自分達が上演している時、この場面はお客さんが笑ってくれるだろうと思っていたところで笑ってくださらなかったり、想定外の場面で笑うなど、タイミングも感覚もすべて役者とお客さんによって

違うものなのだと思います。

また、そこが演劇をする上での醍醐味なのではないかと実感しました。

審査員の先生方にはエンターテインメント要素盛りだくさんのとても楽しい舞台だと評価していただき、優良賞をいただきました。

今大会で得られた改善点などを生かしてこれからも精進してまいりますので応援よろしく願います。



平成27年10月22日呉高専日誌より

### 国際交流部 長岡技科大学学生とスカイプで交流

国際交流部 大室 ひな（環境都市工学科3年）



10月22日、国際交流部の部員と長岡技科大学の留学生とで、スカイプを使った英会話を行いました。放課後、一年生から五年生までの部員4人が集まり、インターネットを通じて、マレーシアから来られたファイロザさんと約40分の会話を楽しみました。

全員初対面でしたが、まずは自己紹介からはじめ、自分の学科で勉強していることなどを話しました。英語がとても堪能なファイロザさん。とても積極的に会話をリードしていただき、部員も英語でなんとか伝えようと頑張りました。将来の夢は？

なんていう深い話に至ることも。そんな時も、実は日本語も流暢なファイロザさんに助けられながら、とてもリラックスした雰囲気です。

国際交流部では、いろいろな国の文化や価値観に触れ、異文化理解に努めています。世界に目を向ければ、お互いに母国ではないけれど、英語で話す場面は当たり前になってきました。

英語はコミュニケーションのツールだということが改めて感じられた活動でした。

平成27年10月24日呉高専日誌より

### 卓球部 第61回呉地区高等学校新人卓球大会で3位になりました

卓球部 大成 伸也（電気情報工学科1年）

10月24日（土）に呉市昭和支所体育館で開催された第61回呉地区高等学校新人卓球大会の男子団体戦に1年生6名が参加しました。

この大会は、第61回広島県高等学校新人卓球大会呉地区予選と43回全国選抜高等学校卓球大会呉地区予選を兼ねており、2位以上になると県新人戦だけではなく全国に繋がる選抜県予選にも出場することができる大会で、呉地区の9校出場しました。

1年生のチームとして健闘しました

が、準決勝で敗れ、惜しくも3位で、全国大会に繋がる選抜県予選は出場できませんでした。

残念ながら目標としていた2位以上にはなれませんでした。3位となり自信となった部分もあります。

この大会で得た収穫と課題を今後の練習に活かしていきたいと思えます。





平成27年10月25日呉高専日誌より

## サッカー部 平成27年度県大学リーグ結果

サッカー部顧問 西坂 強・丸山 啓史

県大学サッカーリーグの最終節で苦戦して5勝1敗となり、昨年同様のリーグ2位で今シーズンが終了いたしました。この試合で5年生が公式戦引退となりました。夏の高専大会が終わっても引退せず、秋の大学リーグまで継続して練習に参加してくれた5年生達に大変感謝しています。

このスタイルは一昨年の内海キャプテンから始められ2年目ですが、今年は、泉キャプテンと5年生全員がその意向に沿って残り、質の高い練習を高専大会後もできたことが、後輩たちのレベルアップにつながり大変助かりました。

本当に5年生のメンバーに感謝しております。お疲れ様でした。

県大学リーグ優勝と高専大会全国での活躍

は来年に持ち越しになりましたが、着実にレベルアップし統一したチーム目標を持つクラブへと変わりつつあると感じております。そして、4年生までの新チームで10月24・25日に新居浜高専と遠征試合を行いました。全国常連校の違いに気が付いてくれれば、練習への取り組みも個々で変わってくると期待をしています。

高専のカテゴリーで高い目標水準を持って練習に取り組めるよう、春には今年度全国優勝の鹿児島高専との遠征試合を計画しています。学生達が目標を達成するために努力し、そのプロセスを通して人として成長してくれることを期待しています。

今後共、ご支援よろしくお願い致します。



平成27年11月17日呉高専日誌より

## 平成27年度広島県高等学校新人剣道大会に出場

剣道部顧問 加納 誠二



平成27年度広島県高等学校新人剣道大会が7日（土）、8日（日）、14日（土）に行われ、剣道部も7日剣道形の試合に3組、8日団体戦に1チーム、14日個人戦に4名（男子3名、女子1名）が出場しました。

団体戦では春の県総体5位（ベスト8）以上の成績を目指して頑張りましたが、ベスト16という結果となり、中国高等学校新人剣道大会への出場が叶いませんでした。また、剣道形・個人戦とも奮わず、上位に進出することが

できませんでした。

反省点が多くある大会でした。来春の中国大会、インターハイ予選、高専大会に向けて、この冬はしっかり稽古していきたいと思っております。

平成27年11月18日呉高専日誌より

## 中国地区高専体育大会（冬季大会）ラグビー競技 戦績報告Aパート第2位！

ラグビー部顧問 山脇 正雄

ワールドカップ等で盛り上がりを見せているラグビーですが、高専大会では初戦を勝ち抜くことができ、選手一同大いに氣勢をあげました。

初戦は松江高専とのゲームで、苦戦を予想してました。その予想通り、前後半を通じて接戦となりました。

前半、ラインアウトから2年生新井君が持ちこみトライ。後半は3年生永井君が、40mあまりのペナルティゴールを見事に決めました。五郎丸選手のようなルーチンはない淡々とした動作でしたが、ボールの真ん中を超える見事なキックでした。

ボールの支配率は高く、危なげない試合でしたが、幾度かのピンチを固い絆で防ぎました。

翌日は優勝候補でシード校の宇部高専とのゲームでした。実力の差を感じていましたが、前半は再度の永井君の長距離ペナルティゴールも決まり、点差をつけられながらも何とか持ちこたえたように思いました。

しかし、後半は連戦の疲れも出てしまい、最終的には50点余りの差がついた結果となってしまいました。敵陣に攻め込む機会も何度かあり決定力の不足で得点できませんでしたが、実力的にはここまでの差は無かったと思います。

とにかく勝って、Aパート第2位の結果になり、来年に期待が繋がった大会になりました。



平成27年11月18日呉高専日誌より

## アイデア対決・全国高専ロボコン2015全国大会

ロボット製作クラブ 道本 郁也（建築学科5年）



平成27年11月22日（日）、東京両国国技館にてアイデア対決・全国高専ロボコン2015全国大会に参加しました。テーマは「輪花繚乱」、ロボットによる輪投げです。赤・青2チームに分かれて対戦し、競技時間3分以内に9本のボールに輪を投げ入れるか、ボールに輪を投げ入れて多くの得点を得たチームの勝利です。

呉高専は中国地区大会においてAチームの「Infinity-1」のVゴールと正確な射出機構が評価され技術賞と全国大会推薦をいただき、去年に引き続き全国大会連続出場を果たしました。それから、約1か月間ロボットの改良を重ね、パワーアップ

して全国大会に臨みました。

全国大会では、どの高専もレベルが高く、熾烈を極めました。呉高専は、1回戦第5試合にて明石高専「わっさん」と対戦しました。呉高専は残念ながらマシントラブルを起こし、十分な実力を発揮できず負けてしまいました。

結果は、1回戦敗退となってしまいましたが、全国大会の経験と悔しさをバネに来年に向け精進して参りたいと思います。

応援に来て下さった卒業生、保護者、教職員の皆様方、本当に有難うございました。

## 11-1月

平成27年11月18日呉高専日誌より

### ETロボコンチャンピオンシップ大会に参加しました

計算機部顧問 藤井 敏則



2015年11月18日、19日パシフィコ横浜において、ETロボコン2015チャンピオンシップ大会が開催されました。全国346チームから勝ち抜いた42チームが集結しプログラミングの技能やプログラムの設計を競い合いました。

計算機部はチーム名を「計算機くれ」として、デベロッパー部門プライマリークラスに参加しました。プライマリークラスは企業11チーム、大学など6チーム、高専・高校4チームの21チー

ムが参加し激戦となりました。

入賞こそ逃しましたが、中四国地区大会ではクリアできなかった難所コースもほぼクリアでき、直前までがんばった成果が発揮できました。

最後に、応援をいただいた教職員・保護者およびETロボコン関係者の皆様に感謝いたします。

平成27年12月16日呉高専日誌より

### 女子バスケットボール部 史上初の表彰状！(T\_T)

女子バスケットボール部 青野 芽生 (建築学科5年)

私達、女子バスケ部は今年度秋から参加していた大学リーグ二部の部で3位に入賞しました。

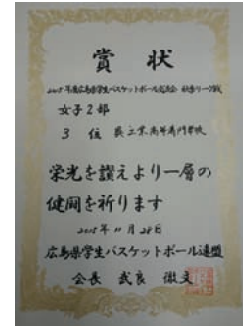
賞を頂くのは、女子バスケ創部以来初の快挙だそうで部員一同とても自信のついた大会になりました。大学リーグは、広島県内の大学のサークルや同好会が集まっています、国体選手がいる強豪チームや全員が1年生のチームなど様々なチームと対戦することが出来る大会です。

私達高専生よりも経験豊富な大学生と試合をするのでなかなか良い結果を求めるの

は難しいかなと思っていましたが、10試合中8試合も勝つことができました。どのチームともそこまで差はなく、1点差や2点差で勝った試合もあります。

高専大会では、追いつけられ負けてしまうことが多かったのですが、今回の大学リーグでは最後まで粘って、落ち着いたプレーができたおかげかそんなことは一度もありませんでした。これはチーム全体の向上に繋がる素晴らしい快挙だったと思います。

この経験を今後に生かし、部員全員一丸となって頑張つて欲しいと思います。



平成27年12月17日呉高専日誌より

### 第47回スポーツリーダーズセミナー

学生主事補 平松 直哉



第47回スポーツリーダーズセミナーを開催しました。

本研修は、各運動部の次年度にリーダー(部長・キャプテン)になる人を対象に、運動部の指導者としての見識、また部活動を行う際のトレーニング方法を学ぶことを目的としています。ケアウイング曙の高橋大輔氏を講師にお招きして、午前中は「リーダーシップ」について、午後は「身体の基本的機能とコンディショニングトレーニング」をテーマにご講義頂きました。

午前の講義ではいくつかのペア・グループワークを通して、リーダーとして(だけではなくても)重要なコミュニケーションについて、「自分を知ること」、「他者の理解」、「3つのきく(ask,

hear, listen)」について学びました。「リーダーとは強い個性を持つ人だけになるというものだけではなく、誰もが自分の役割(得意なこと)に応じてリーダーになる」という言葉がとても印象に残りました。

午後の講義では赤ちゃんの発達段階を参考にご考案されたトレーニングを学びました。普段、部活動で鍛えている人も、中々大変そうでした。けがをしないために必要なトレーニングです。

今回の研修を通して学んだことを、ぜひ次年度からのクラブ活動・運営に生かして下さい。

最後に今回の講師をご快諾頂いた高橋大輔先生、運営に携わって頂いた担当教職員、学生に御礼申し上げます。

平成28年1月16日呉高専日誌より

### 呉高専吹奏楽部第18回定期演奏会

吹奏楽部顧問 宇根 俊範

1月16日(土)、毎年恒例の吹奏楽部定期演奏会(第18回)を広まちづくりセンターホールで開催しました。今年は例年以上の方に会場いただき、部員たちも張り切って演奏できたように思います。

本校吹奏楽部演奏会は演奏曲がバラエティーに富み、またいろんな演出がされていて非常に楽しい時間を過ごせる点が特徴ですが、当日ご来場いただいたお客様のアンケートのご意見を一部披露します。

・大変楽しい時間でした。癒されました。

・本当にあたたかいムードの演奏会でした。来年も楽しみにしています。

・吹奏楽コンサートでこんなに笑ったのはじめてです。楽しませていただきました。

この他、たくさんの励ましの言葉をいただきました。ありがとうございます。

演奏会終了後は後片付けをサツと終えて部室に戻り、反省会およびミーティングです。在校生部員から本卒業生に感謝の花束贈呈がありました。





平成27年9月9日呉高専日誌より

### 阿賀小学校2年生が虫を見つけに来られました

学生課長 村岡 昌良

9月9日（水）阿賀小学校2年生101名が虫を見つけに来られました。

「げんきにそだて」という生活科の学習の一環として、「生き物が住んでいる場所の特徴に気づく。」ことや「生き物に親しみを持ち、大切にする。」ことを目的に、虫を取るあみとかごを持って、学生寮そばの草むらやグラウンドでバッタ、コオロギ、トンボ、チョウなどを夢中で探していました。

途中から雨も降り出す中、いっぱい虫を取った児童もいればなかなか取れない児童もいたり様々でしたが、虫を追いかけている様子はとても楽しそうでした。



平成27年10月2日呉高専日誌より

### 平成27年度呉高専校内球技大会

学生会広報委員会 山下すみれ（環境都市工学科3年）



10月2日、金曜日、球技大会が開催されました。

今年で、3度目の球技大会を迎える私は、あまり緊張せず、楽しむことができました。「昨日の雨はどこに行ったのかと言うほど晴れ、呉高専の上の空だけ雲がない」と学生会長の一言によって、多くの学生が空を見上げて、始まった球技大会。

私が入学してから、球技大会当日は快晴というほど、恵まれた天気を迎えていませんでしたが、今年の球技大会は、とても気持ちの良いスタートができました。

私が今年の球技大会で感じたことは、低学年でも高学年に勝つくらい強いということです。

先輩、後輩関係なくみんな必死に楽しみながらプレーしていましたし、昼休憩以降までトーナメントで残ったチームは、休憩時間を返上して練習しているチームもあり、改めて球技大会は面白いなど思いました。

来年もまた応援し、プレーをしながら、上を目指していけたらいいなど思いました。

平成27年10月4日呉高専日誌より

### 広島で入試説明会を開催

教務主事補 富村 憲貴

今年も入試説明会の時期となりました。10月4日（日）に、広島大学東千田キャンパスで今年度初回の入試説明会を開催しました。

説明会の前半では、篠部教務主事による学校概要説明の後、機械工学科、電気情報工学科、環境都市工学科、建築学科の各教員による学科紹介を行いました。後半は、入試の方式や内容、出願時の具体的な注意事項について説明いたしました。

なお、学力入試については、今年度よりマークシート方式が導入されます。今回の

説明会では、マークシートの見本もご覧いただきました。

10月18日（日）には呉会場と三次会場、10月25日（日）には福山会場で入試説明会を開催します。

本校に興味をお持ちの方はぜひご参加ください。



平成27年10月7日呉高専日誌より

### 平成27年度阿賀地区地震・津波合同避難訓練が実施されました

総務課庶務室総務係



10月7日（水）、本校の所在する呉市阿賀地区において、南海トラフの巨大地震に備え、地域住民、地域内諸学校の学生等、約2,000名が参加する大規模な地震・津波合同避難訓練が実施されました。

本校からは、1学年及び一部教職員の約180名が参加し、本校から北東側に位置するコトブキ技研株式会社様の駐車場まで迅速に避難しました。

今回の訓練を行い、今後地震及び津波等が発生したら、自分達はどういった行動を心掛けるべきか、一人一人が考える良い機会になりました。

# 10月

平成27年10月7日呉高専日誌より

## 地域を美しく！クリーンアップ阿賀に参加しました

教務主事補 富村 憲貴



10月7日(水)、アガデミア合同地域清掃活動(クリーンアップ阿賀)に本校の1年生が参加しました。

アガデミアとは、阿賀地区の7つの教育機関と地元自治会とで組織する「阿賀学園地域教育連携協議会」の愛称です。その活動の一環として、学校・自治会が合同で清掃活動を行う、クリーンアップ阿賀を実施しています。同日に行われた合同津波避難

訓練の後、アガデミアに加盟する学校がそれぞれの区域の清掃活動を行いました。

参加した学生と教職員の頑張りで、多くのゴミ、雑草を取り除くことができました。ゴミを道ばたに捨てたりすることのないよう、日頃から環境美化に努めましょう。

平成27年10月19日呉高専日誌より

## 第64回 寮生指導者研修会

寮務主事補 佐賀野 健

平成27年10月19日に第64回寮生指導者研修会がグリーンピアせとうちにて開催されました。

この研修会は春と秋の毎年2回実施されます。今回は新しく寮生会の役員となった3・4年生が参加しましたが、これまで以上に学生寮を良いものにしようとする熱意な議論がなされました。

最初に全体討議では、前回の研修会で立てた各寮・階の努力目標の達成度についての反省と、今後の目標について報告がありました。その後、寮生活の意義について全

体で討議した後、三つのグループに分かれて「寮生の遅刻対策」「イベントの見直し」「ミーティングの改善」について討議が行われました。

今回の研修での話し合いだけで終わらせるのではなく、これから寮生の指導者としてどのように行動していくかが重要だと思います。

寮生みんながより充実した生活を送ることができるように、活動してくれることを期待しております。



平成27年10月30日呉高専日誌より

## 映画祭がありました

学生会広報委員 友田 奈那・村上 琴羽(建築学科3年)



10月30日(金)、高専祭の前夜祭が行われました。軽音部による演奏とダンス部によるパフォーマンスの後、各学科の3年生による自主制作映画を発表する映画祭がありました。

私たち建築学科は、コミカルな映画が多い中、あえてシリアスなテーマで挑みました。脚本の製作や撮影は放課後等に自分たちで行い、参加した人たちはみんな楽しそうでした。

上映の時には、どの学科の映画も個性豊かな内容で面白く、会場は大変盛

り上がりました。

そして気になる結果発表の時！映像とストーリーが高評価を獲て、見事、建築学科が優勝することができました！

映画製作に携わった3年生のみなさん、お疲れ様でした。

平成27年10月31日呉高専日誌より

## 平成27年度 第2回学校見学会

教務主事補 山岡 俊一

平成27年10月31日(土)、第2回学校見学会が開催され、242名の方(中学生:132名、保護者:110名)にご参加いただきました。

まず、視聴覚教室において全体説明会が行われ、森野校長より呉高専の説明がありました。その後、参加者の皆さんは各学科を回り、展示や実験を見学、体験しました。

また、この日は高専祭初日でもあり、

模擬店でお昼ご飯を食べ、ステージ企画や文化展示、ライブ等を楽しんでいただきました。

入試まであと少しになりましたが、体に気をつけて残りの中学校生活を頑張ってくださいね。





平成27年11月1日呉高専日誌より

### 呉高専創立50周年記念モニュメント除幕式を行いました

総務課庶務室総務係

11月1日（日）に創立50周年記念事業の一環として製作されたモニュメントの除幕式を行いました。式典には、木坂呉市副市長をはじめ、中野呉商工会議所専務理事、加藤阿賀地区自治会連合会会長、その他アガデミア会員の方々や本校関係者など、約120名が出席しました。

除幕式では、森野校長からモニュメント設立の趣旨などを交えて挨拶があり、続いて木坂副市長、中野専務理事からご祝辞を頂戴し、吹奏楽部のファンファーレと共に、来賓及び本校関係者により除幕が行われました。

また、モニュメントデザイン発案者である上光日向様（阿賀中学校1年生）と、モニュ

メントデザインのモチーフとなったロゴマークの発案者である清川直子様（本校卒業生）へ記念品を贈呈し、モニュメントデザイン設計者である間瀬教授から、コンセプトの説明が行われました。

最後に、加藤会長の音頭により、本校のさらなる発展に向け万歳三唱を行い、除幕式を締めくくりました。

今後、モニュメントに付随する時計機能、電光掲示板機能を活用し、本校及び阿賀地区をはじめとした呉市のランドマークとなることが期待されます。



平成27年11月2日呉高専日誌より

### 寮祭が開かれました

寮務主事補 浦地 祐子



10月30日（木）の19時から21時まで、嶺陽寮では寮祭を開催しました。本行事は毎年高専祭の前々日に、高専祭実行委員技術部スタッフが尽力して設営してくれた高専祭用ステージを活用して行われています。

全寮生（現在300名余）が一堂に会し開かれる寮祭のメインイベントは、何と言っても一年生によるスタンツ（寸劇、踊り）です。今年も男子寮の同じ階に住む者同志が協力し合い、息の合った面白い寸劇を発表しました。

今年の一年生スタンツ部門で優勝を獲得したのは、女子寮一年生でした。現在女子寮一年生は17名おり、例年になく大所帯になっていますが、この日のために一致団結してダン

ス練習を重ね、AKB48の曲に合わせて踊ってくれました。

その出来栄は、本当に見事でした。その他、寮生会役員・ライフマスターによるスタンツ、ツイスターゲーム、ビンゴゲームなど様々な企画が取り入れられ、楽しい寮祭のひと時があつという間に過ぎていきました。

企画運営に当たった役員ならびにライフマスターの皆さん、大変お疲れ様でした。

また、寮文化行事の実施に際し多大なご理解とご支援を頂きました寮生保護者会の皆様に、心より感謝申し上げます。有難うございました。

平成27年11月30日呉高専日誌より

### 平成27年度第2回ブックハンティング

学生会文化環境副委員長 三京 拓弥（機械工学科3年）

今年度の第2回目のブックハンティングが、11月30日（月）に開催されました。場所はジュンク堂書店（広島駅前店）に1～3年生の学生およそ20人ほどでおじゃまさせてもらいました。

試験明けの当日ということもあり、みんな解放感に満ち、生き生きと本を選んでいる様子が見受けられました。予算は1人1万円でしたが専門書には高価なものも多く、どの本を買うか選ぶのにとっても苦戦しまし

た。中には自分の持ってきたお金で気になった専門書を選んで買っているようなとても意識の高い学生も居て素晴らしいなと思いました。

なかなか普段買えない本を選んで買ってきたので学校の図書館に並べられるのを楽しみに待っていてください。

なお、ブックハンティングに必要な経費は後援会から支援していただいています。

ありがとうございました。



平成27年12月10日呉高専日誌より

### ミニ・コンサート開催

吹奏楽部顧問 宇根 俊範



呉高専内の音楽に関わるグループ・団体によるコンサートを放課後に視聴覚教室で開催しました。

出演したのはピアノ同好会・フォークソング部・インキュベーションワーク（合唱曲を歌おう）・吹奏楽部（アンサンブル）です。合唱には地元阿賀まちづくりセンターコーラス教室の方々にも加わっていただきました。

演奏曲はクリスマスソングやアニメ、映画音楽等いろいろなジャンルにわたり、各グループ、それぞれ特色のある演奏で来場

して下さった方々も十分満足されたのではないのでしょうか。また、出演グループもお互いの演奏を聴き合うことで勉強になったと思います。

当日の来場者のアンケートには「気持ちよくなった」「なごり雪は鳥肌がたった」「感動しました」等のご意見をいただきました。

## 12-2月

平成27年12月12日呉高専日誌より

### 第10回アガデミア文化発表会 — THANKS阿賀 in アガデミア —

教務主事補 富村 憲貴



12月12日（土）に、阿賀公民館3Fホールにて「第10回アガデミア文化発表会」が開催されました。

アガデミアとは、阿賀地区の7つの教育機関と地元自治会とで組織する「阿賀学園地域教育連携協議会」の愛称です。阿賀まちづくり協議会との共催で実施している本発表会も今年で10回目を迎え、阿賀地区の各学校による吹奏楽、合唱、手話、演劇、踊りが披露されました。

呉高専からは演劇部が出演し、「お浦と治作」を上演しました。阿賀に伝わる悲恋

の物語をもとに、部員が現代的な味付けを加えて脚本を書いた作品です。

役者が客席にまで下りていき、観客とのやりとりをもとにストーリーを変えていく、といった面白い試みも交えられていました。

ご来場くださった皆様に心より御礼申し上げます。

平成27年12月13日呉高専日誌より

### 第3回びっくりワクワククリスマスサイエンスショーを開催しました

自然科学系分野 川勝 望（サイエンスショー担当）

平成27年12月13日（日）に、「第3回びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催しました。

このイベントは、自然科学・人文社会、機械、電気、環境、建築といった幅広い分野の実験・工作を体験することで、自然の不思議や科学の面白さを体験してもらうことを目的としています。今年には30種類ものブースの出展があり、この規模のイベントは本校としては初めての試みです。

イベント当日は、天候にも恵まれ、園児・小学生や家族連れなど、約650名と多くの方にご来場いただきました。材料に限りのあるブースでは、希望する方全員に体験していただくことができずにご迷惑をお掛けいたしました。全ブースとも大いに盛り上がりました。

子どもたちが目を輝かせて、数多くの実験・工作を体験し、作ったものを大事そうに持ち帰る様子を見ると、このようなイベントの重要性を強く感じさせられます。また、子どもたちが本校の学生（やさしいお兄さんやお姉さん）と楽しく作業している様子が印象的でした。

来場者の中から、未来の技術者・科学者が出てくれることを期待しています。

来年も開催予定ですので、またのご来場をお待ちしております。

最後に、本イベントの目的に賛同していただき、ブースを出展して下さいました株式会社ミカサ、戸田工業株式会社、公益社団法人日本技術士会中国本部、株式会社中国放送、宮本機器開発をはじめとする協賛・協力企業の皆様に感謝いたします。



平成28年1月13日呉高専日誌より

### 平成27年度校内読書感想文コンクールの表彰式

学術情報係 原田 亜紀子



平成27年度校内読書感想文コンクールの最優秀賞の表彰式を、校長室でおこないました。最優秀は、以下のとおりです。

- 1年 環境都市工学科 沖田 航周
- 2年 建築学科 清水 波音
- 3年 電気情報工学科 空 翔太

読書感想文コンクールは、毎年図書館主催で実施しており、今年で第12回になります。

学生は、  
1年生：課題図書（芥川賞・直木賞受賞作等）  
2年生：教員の指定した課題図書

3年生：ノンフィクションなど政治経済に関する本、4年生以上：自由

と、指定された本を読み、夏休み中に感想文をまとめて応募します。

選考は、本校教員がおこないますが、学年によっては、名前を伏せた上で学生の感想を聞くという、学生による評価もおこなっています。

最優秀賞の受賞は、前回は男子学生だけでしたが、今回は、男子学生2名、女子学生1名という結果になりました。次回もたくさんの方の作品の応募があることを期待しています。

平成28年2月16日呉高専日誌より

### 卒業寮生歓送夕食会

寮務主事補 泉 洋輔

2月16日（火）17時30分より学生寮食堂において卒業寮生歓送夕食会が開催されました。この日は学年末試験の最終日でしたので、参加した寮生諸君の顔は開放感からか晴れぱれとしていました。

さて、卒業寮生の入場に始まり、寮務主事・寮生副会長の挨拶のあと、卒業寮生代表への記念品贈呈があり、卒業寮生から寮食堂の従業員の方への花束贈呈、そして前寮生会長の挨拶と続き、歓送夕食会が始まりました。

5年あるいは7年間の寮生活の経験は、今後の社会の一員となっていく上で貴重なものとなるでしょう。これからの大いなる活躍を期待したいと思います。

最後になりましたが、盛大な夕食会を企画立案していただいた寮生会役員と寮食堂のみなさま、そして、会場の準備・片付けを分担して手際よくやってくれた寮生諸君に感謝します。





平成27年11月5日呉高専日誌より

## 元校長福永秀春名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました

総務課庶務室総務係

平成27年秋の叙勲で、本校の元校長福永秀春名誉教授が瑞宝中綬章を受章されました。

福永名誉教授は昭和43年4月から平成13年3月まで33年間、広島大学に奉職され、在職中には専門である材料工学分野において、先進複合材料の製造プロセス及びその信頼性強度に関する研究を進展させ、百数十編の論文を国内外に発表し、学術並びに生産技術の進展に貢献されました。

また、平成13年4月からは本校第6代校長として就任され、呉高専を特色ある地域に根ざした高等教育機関として発展させるため、本校の教育並びに管理運営に注力されました。

以上のように、長年にわたる教育研究への功績が評価され、この度の受章に至りました。

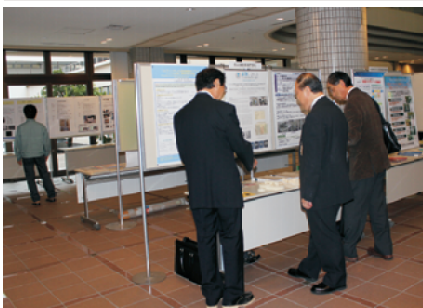
心よりお祝い申し上げます。



平成27年11月5日呉高専日誌より

## 西部工業技術センター研究成果発表会

協働研究センター



11月5日（木）に西部工業技術センターにて研究成果発表会が開催されました。

西部工業技術センターでは、県内中小企業の技術支援を推進するための発表会が毎年開催されています。

本校からは、技術支援機関の紹介コーナーにおいて、中迫教員「研究室紹介及び潤滑油のトライボロジー特性に及ぼす金属ナノ粒子の効果」、山脇

教員「3Dプリンタによる炭素繊維強化プラスチックの成形」の2件のポスター展示を行い、シーズを発信しました。

平成27年11月12日呉高専日誌より

## 呉市議会議員が視察のため来校されました

総務課庶務室総務係

11月12日に呉市議会の谷本誠一議員が視察のため呉高専を来校されました。

校長室にて懇談の後、校長及び担当教員の案内で建築学科棟、co-ba呉高専（学生課ロビー）、電気情報工学科棟、実習工場、環境都市工学科棟、協働研究センターの施設見学を行い、担当教員へ熱心にご質問いただきました。

本校の技術力を知っていただき、呉

市との連携が深まる良いきっかけになったかと思えます。

ご来校ありがとうございました。



平成27年11月30日呉高専日誌より

## 永年勤続者表彰式（20年勤続）

総務課庶務室人事係



11月16日（月）、校長室において、高専機構教職員表彰規則で定める永年勤続者表彰式（20年勤続）が行われました。

この表彰式は、在職期間（他機関を含む）が20年を超えた教職員を対象として行われるもので、例年勤労感謝の日を基準日として開催しています。

今年度の表彰者は、横沼実雄氏（電気情報工学分野准教授）、加納誠二氏

（環境都市工学分野教授）の計2名で、副校長、環境都市工学分野代表、事務部長立会いの下、森野校長から表彰状及び記念品が授与されました。

なお、表彰式の後は、本校の築庭にて写真撮影が行われました。

# 12月

平成27年12月2日呉高専日誌より

## 消防訓練を実施しました

総務課会計室施設係 飯田 泰隆



12月2日(水)、平成27年度消防訓練を実施いたしました。  
 機械工学科棟にて火災が発生したという想定で、事務職員による通報訓練及び全学生・教職員の避難訓練を行い、呉市東消防署阿賀北出張所より、4名の消防士の皆様にお越しいただきました。  
 14:10過ぎの訓練火災発生避難開始の放送により、避難を開始、滞りなく野球グラウンドへ避難完了することができました。  
 避難完了後、消防士の方より、真剣な内

容の中にもまねを交えたユニークなご講評は、学生の関心をよび、エレベーターを使わず、階段で壁に沿って避難。いつ起こるか分からない火災や災害に対して準備しておくことの大切さを学びました。  
 学生・教職員全員が防災意識を高く持ち、万が一の際に冷静に対応できる呉高専であるよう、今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

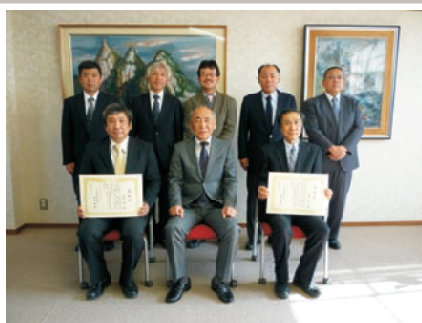
平成27年12月3日呉高専日誌より

## 平成27年度校長表彰授与式

総務課庶務室人事係

平成27年12月3日、本校教員表彰規則で定める校長表彰の表彰状授与式が挙行されました。  
 この表彰は、教育、研究及び社会貢献活動等において、優れた功績があったと認められる教員を表彰するものであり、11月5日の総務委員会の選考に基づき、決定されました。  
 本年度の受賞者は、環境都市工学分野 森脇武夫教授(第2条第1号表彰)、加

納誠二教授(第2条第2号表彰)で、副校長、各主事、事務部長立会いのもと、森野校長から表彰状及び副賞が授与されました。



平成27年12月15日呉高専日誌より

## 学生会と校長先生たちとの「学校を良くする懇談会」

学生主事補 黒川 岳司



12月15日の放課後に学生会執行部を中心とする学生の代表12名と森野校長、吉田事務部長ら学校幹部の方々との「学校を良くする懇談会」が開かれました。  
 この懇談会は、学生にとって呉高専がさらに学びやすく楽しい学校へと発展するように、学生目線の率直な意見・アイデア・要望を校長先生ら学校幹部の方々に伝え、その内容について意見交換するというもので、今回が初めての試みです。  
 学生会では、学生会長の泰君(機械工学科3年)を中心に、懇談会に提出する要望書をまとめることとしました。結果として、第1回ということもあってか、授業に関する事、設備に関する事、寮に関する事など全部で39もの多岐にわたる意見・要望を伝えることになりました。

懇談会では、この39の意見・要望に対し、学校幹部の方々の一つひとつ丁寧に回答して頂きました。そのため、1時間半を越える懇談会となりましたが、参加した学生は、学生が思っている以上に先生方は常に呉高専が学生にとってより良い学校になるように考えてくれていると感じることができたと思います。  
 なお、いくつかの要望には早速対応して頂きました!  
 この「学校を良くする懇談会」は、継続的に年2回ずつ行われる予定です。次回には今回の要望から改善が進んでおり、さらに学生からもっと建設的な意見やアイデアがでることを期待しています。

平成27年12月15日呉高専日誌より

## 呉市選挙管理委員会より期日前投票所の設置依頼がありました

総務課庶務室総務係

12月15日に呉市選挙管理委員会の藤本委員長をはじめ、川村事務局長、谷事務局長次及び船越課長補佐が、期日前投票所の設置依頼のため、呉高専に来校されました。  
 校長室にて懇談の後、藤本委員長から森野校長へ依頼文書が渡され、森野校長から承諾の回答がありました。その後、投票所の設置を予定している図書館棟1階のテクノショップへご案内いたしました。  
 今回の設置依頼は本校と呉市の連携協力に関する協定に基づくもので、期日前投票

所の設置については全国の高専で初めてとなります。  
 なお、期日前投票所は平成28年6月19日以降において公示される国政選挙から設置することとし、本校の学生だけでなく、近隣のアガメリア加盟校の学生、生徒や一般市民の方々にも利用していただける予定です。





平成27年12月26日呉高専日誌より

先端電磁波システム研究室設立20周年記念行事

先端電磁波システム研究室

平成7年6月16日、本校電気工学科(現電気情報工学科)に研究室が設立されて以来、今年で20年になったことから、卒研生たちが発起人になり、年末の12月26日、記念行事が以下のように挙行されました。

現在も続く「本科・専攻科3年間一貫教育」、そして最後に卒研生へのエールを込めて、先生自らの訓戒でもある、自己、組織、開発、研究に際して重要となる「訓示四戒」が講演されました。

①記念講演会(16:00~17:00)

卒研生には懐かしい電気情報工学科棟情報処理演習室にて、指導教授の記念講演が行われました。前半の演題は、卒研生としての依頼から『先生の歴史』になり、「不遇の少年期」や「波乱万丈の中学時代」などをユーモアを交えながら講演。後半は真面目に『研究室20年の歩み』と題し、ゼロからスタートした「創立当時」、3年目辺りから有り難くも外部資金が継続して補助され始めた「研究環境整備時」、7年目あたりから導入し、

②記念祝賀会(18:00~20:00)

場所をクレイトンベイホテルに移して祝賀会がスタート。各卒研生からは、研究室時代の思い出や近況などが報告され、そのたびに先生からの暖かいツツコミが寄せられ、往時の出来事(懺悔)が思い出される一幕もありました。

なお本会の残額は呉高専50周年記念事業に寄付させて頂きました。この場をお借りして御礼申し上げますとともに、卒研生全員の今後の活躍を祈念してやみません。



新聞・テレビ等に乗った呉高専

Table with 2 columns: Date and News/TV Title. Contains a list of media appearances from 2015 to 2016.

※ 呉高専ホームページ「新聞・TV等に乗った呉高専」に掲載(随時更新中!)

# Realize your Dream

君の未来を共に創る

呉高専ではホームページで  
球技大会、高専体育大会、駅伝大会、ロボコン大会等、  
校内外の行事や授業風景、寮の様子、クラブ活動など日々の学生生活を  
「呉高専日誌」で紹介しています。



呉高専 検索

呉高専ホームページ  
<http://www.kure-nct.ac.jp/>



## 交通案内

### ▶▶交通機関をご利用の場合

- JR呉線安芸阿賀駅下車 徒歩約7分
- 広島電鉄バス「先小倉」「阿賀駅前」下車、徒歩約10分

### ▶▶お車でお越しの場合

- 【広島方面から】広島呉道路(クリアライン)呉ICより20分
- 【東広島方面から】東広島呉道路、先小倉交差点より5分
- 【竹原方面から】国道185号、先小倉交差点より5分

呉高専だより 73号

2016年3月

編集・発行 呉工業高等専門学校 広報室

〒737-8506 呉市 阿賀南2丁目2-11

TEL:0823-73-8964 Mail:kouhou@kure-nct.ac.jp